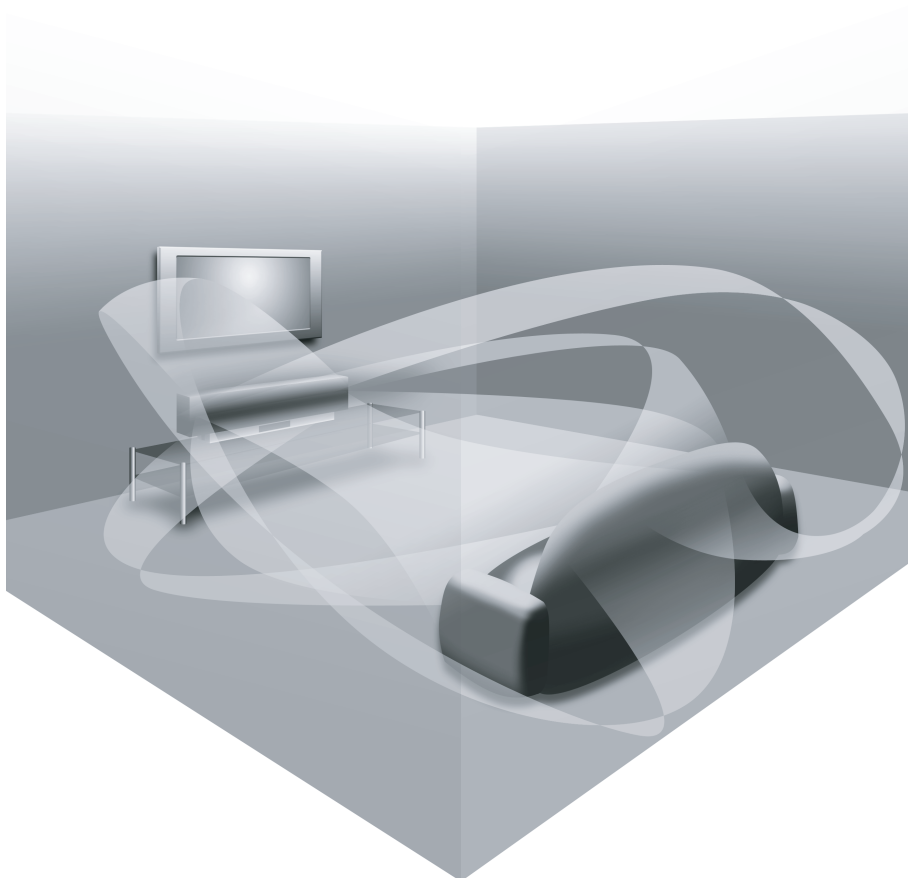


デジタルサウンドプロジェクター

YSP-1

取扱説明書



ヤマハ デジタルサウンドプロジェクター YSP-1 をお買い上げいただきまして、まことにありがとうございます。

■本機の優れた性能を十分に発揮させると共に、永年支障なくお使いいただくために、ご使用前にこの取扱説明書と保証書をよくお読みください。お読みになったあとは、保証書と共に大切に保管し、必要に応じてご利用ください。

■保証書は、「お買上げ日、販売店名」などの記入を必ず確かめ、販売店からお受け取りください。

保証書別添付

安全上のご注意

正しく安全にお使いいただくため、ご使用前に必ずお読みください。

この「安全上のご注意」に書かれている内容には、お客様が購入された製品に含まれないものも記載されています。

絵表示について

この取扱説明書および製品への表示では、製品を正しく安全にお使いいただき、あなたや他の人々への危害や財産への損害を未然に防止するために、いろいろな絵表示をしています。内容をよく理解してから本文をお読みください。

絵表示の例



気をつけなければならない内容を表示しています。
たとえば△は「感電注意」を示しています。



してはいけない行為を表しています。
たとえば⊘は「分解禁止」を示しています。



必ずしなければならない行為を表しています。
たとえば●は「電源プラグをコンセントから抜くこと」を示しています。



警告

この表示を無視して、誤った取扱いをすると、人が死亡または重傷を負う可能性が想定される内容を示しています。



プラグを抜く

下記の場合には、**すぐに電源を切り、電源プラグをコンセントから抜く。**

- ・異常なおいや音ができる。・煙が出る。
 - ・内部に水や異物が混入した。
- そのまま使用すると、火災や感電の原因となります。



禁止

電源コードを傷つけない。

- ・重いものを上に載せない。・ステーブルで止めない。・加工をしない。
 - ・熱器具には近づけない。・無理な力を加えない。
- 芯線がむき出しのまま使用すると、火災や感電の原因となります。



水ぬれ禁止

本機を下記の場所には設置しない。

- ・浴室・台所・海岸・水辺
 - ・加湿器を過度にきかせた部屋
 - ・雨や雪、水がかかる場所
- 水滴の混入により火災や感電の原因となります。



接触禁止

雷がなりはじめたら電源プラグには触れない。

感電の原因となります。



分解禁止

分解・改造は厳禁。キャビネットは絶対に開けない。

火災や感電の原因となります。
修理・調整は販売店にご依頼ください。



禁止

放熱のため本機を設置する際には：

- ・布やテーブルクロスをかけない。・じゅうたん・カーペットの上には設置しない。
 - ・あおむけや横倒しには設置しない。・通気性の悪い狭いところへは押し込まない。
- 本機の内部に熱がこもり火災の原因となります。



注意

この表示を無視して、誤った取扱いをすると、人が傷害を負う可能性が想定される内容および物的損傷のみの発生が想定される内容を示しています。



禁止

電池を充電しない。

電池の破裂や液もれにより火災やけがの原因となります。



禁止

電池からもれ出た液には直接触れない。

液が目や口に入ったり、皮膚についたりした場合はすぐに水で洗い流し、医師に相談してください。



必ず行う

本機を落としたり、本機が破損した場合には、必ず販売店に点検を依頼してください。

そのまま使用すると火災や感電の原因となります。



必ず行う

必ずAC100V(50/60Hz)の電源電圧で使用する。

それ以外の電源電圧で使用すると、火災や感電の原因となります。



必ず行う

電源プラグのゴミやほこりは定期的にとり除く。

ほこりがたまったまま使用を続けるとプラグがショートして火災や感電の原因となります。



禁止

本機にもものを入れたり、落としたりしない。

火災や感電の原因となります。



禁止

本機の上には、花瓶・植木鉢・コップ・化粧品・薬品・ろうソクなどを置かない。

- 水や異物が中に入ると、火災や感電の原因となります。
- 接触面が経年変化を起こし、本機の外装を損傷する原因となります。



禁止

不安定な場所や振動する場所には設置しない。

本機が落下や転倒してけがの原因となることがあります。



禁止

直射日光のあたる場所や温度が異常に高くなる場所(暖房機のそばなど)には設置しない。

本機の外装が変形したり内部回路に悪影響が生じて、火災の原因となることがあります。



注意

この表示を無視して、誤った取扱いをすると、人が傷害を負う可能性が想定される内容および物的損傷のみの発生が想定される内容を示しています。



必ず行う

再生を始める前には、音量(ボリューム)を最小にする。

突然大きな音が出て聴力障害等の原因となることがあります。



プラグを抜く

長期間使用しないときは、必ず電源プラグをコンセントから抜く。

火災や感電の原因となることがあります。



ぬれ手禁止

ぬれた手で電源プラグを抜き差ししない。

感電の原因となることがあります。



禁止

電源プラグを抜くときは、電源コードをひっぱらない。

コードが傷つき、火災や感電の原因となることがあります。



プラグを抜く

移動をするときには、本機(または接続機器)の電源スイッチを切り、すべての接続を外す。

- ・ 機器が落下や転倒してけがの原因となることがあります。
- ・ コードが傷つき火災や感電の原因となることがあります。



禁止

長時間音が歪んだ状態で使用しない。

スピーカーが発熱し、火災の原因となることがあります。



必ず行う

電池は極性表示(プラス⊕とマイナス⊖)に従って、正しく入れる。

間違えると破裂や液もれにより火災やけがの原因となることがあります。



禁止

指定以外の電池は使用しない。また種類の異なる電池や新しい電池と古い電池をいっしょに混ぜて使用しない。

破裂や液もれにより火災やけがの原因となることがあります。



禁止

電池と金属片をいっしょにポケットやバッグなどに入れて携帯、保管しない。

電池がショートし破裂や液もれにより火災やけがの原因となることがあります。



注意

この表示を無視して、誤った取扱いをすると、人が傷害を負う可能性が想定される内容および物的損傷のみの発生が想定される内容を示しています。



禁止

電池を加熱・分解したり、火や水の中へ入れない。

破裂や液もれにより火災やけがの原因となることがあります。



禁止

ほこりや湿気の多い場所に設置しない。

ほこりの堆積によりショートして、火災や感電の原因となることがあります。



プラグを抜く

手入れをするときには、必ず電源プラグを抜いて行う。

感電の原因となることがあります。



注意

本機はデジタル信号を扱います。他の電気製品に障害をあたえるおそれがあります。

それらの製品とはできるだけ離して設置してください。



必ず行う

電源プラグはコンセントに根もとまで確実に差し込む。

差し込みが不十分のまま使用すると感電したり、プラグにほこりが堆積して発熱や火災の原因となることがあります。



禁止

電源プラグを差し込んだときゆるみがあるコンセントは使用しない。

感電や発熱・火災の原因となることがあります。



禁止

薬物厳禁

ベンジン・シンナー・合成洗剤等で外装をふかない。また接点復活剤を使用しない。

外装が傷んだり、部品が溶解することがあります。



注意

年に一度くらいは内部の掃除を販売店にご依頼ください。

ほこりがたまったまま使用を続けると、火災や故障の原因となることがあります。

本機の電源を切っても(電源コードをコンセントから抜いた状態)、選択した入力ソース、音量、セットメニューの設定などは本機に記憶されています。ただし、電源を切った状態が1週間以上続くと、記憶内容が消去されることがあります。そのような場合はもう一度設定しなおしてください。



音楽を楽しむエチケット

楽しい音楽も時と場所によっては大変気になるものです。隣近所への配慮を十分にしましょう。静かな夜間には小さな音でもよく通り、特に低音は床や壁などを伝わりやすく、思わぬところに迷惑をかけてしまいます。適当な音量を心がけ、窓を閉めたり、ヘッドホンをご使用になるのも一つの方法です。音楽はみんなで楽しむもの、お互いに心を配り快適な生活環境を守りましょう。




ドルビーラボラトリーズからの実施権により製造されています。「ドルビー」、「PRO LOGIC」およびダブルD記号DDは、ドルビーラボラトリーズの商標です。



DTSおよびNeo:6はデジタルシアターシステムズの登録商標です。




AAC ロゴマーク  はドルビーラボラトリーズの商標です。以下はパテントナンバーです。

08/937,950	5,633,981	5,227,788	5,299,239
5848391	5 297 236	5,285,498	5,299,240
5,291,557	4,914,701	5,481,614	5,197,087
5,451,954	5,235,671	5,592,584	5,490,170
5 400 433	07/640,550	5,781,888	5,264,846
5,222,189	5,579,430	08/039,478	5,268,685
5,357,594	08/678,666	08/211,547	5,375,189
5 752 225	98/03037	5,703,999	5,581,654
5,394,473	97/02875	08/857,046	05-183,988
5,583,962	97/02874	08/894,844	5,548,574
5,274,740	98/03036	5,299,238	08/506,729



本デジタル・サウンド・プロジェクターは、全世界へ特許申請中の英国 1Ltd からライセンス許諾を得た製品です。

“” ロゴと、“デジタル・サウンド・プロジェクター” は 1Ltd の商標です。

この取扱説明書の見かた

サラウンドサウンドを楽しむまでの流れ

梱包箱をあけたら、付属品がすべてそろっているか確認します。

「付属品を確認する」(12ページ)



本機をリスニングルームに設置します。

「本機をリスニングルームに設置する」(17ページ)



本機をテレビやその他の外部機器と接続します。

「接続する」(19ページ)



リモコンの準備やOSD(オンスクリーンディスプレイ)の表示をします。

「リモコンの準備～」(26ページ～)



メモリーやイージーセットアップで、本機を使うための設定をします。

「簡単な設定のしかた」(29ページ)



ソースを再生したりビームモードの設定を変更してみたりしてサラウンドサウンドを楽しみます。

「ソースを再生する～」(40ページ～)

もっともっと本機でいろいろなことがしたい！という方は



マニュアルセットアップやリモコンコードを設定します。

「高度な設定のしかた～」(45ページ～)

安全上のご注意	2
---------------	---

本機について

この取扱説明書の見かた	7
サラウンドサウンドを楽しむまでの流れ	7
はじめに	10
リスニングルームの条件	12
本書の記載について	12
付属品を確認する	12
各部の名称とはたらき	13
前面(フロントパネル)	13
ディスプレイ	13
底面	14
リモコン	15

設置・接続する

本機をリスニングルームに設置する	17
設置場所を決める	17
壁掛け金具を使用して設置する	18
スタンドを使用して設置する	18
ラックを使用して設置する	18
本機を固定する	18
接続する	19
テレビを接続する	20
DVDプレーヤー/レコーダーを接続する	21
ビデオデッキを接続する	22
その他の機器を接続する	23
サブウーファースを接続する	24
電源コードを接続する	25
RS-232C端子について	25

準備・基本操作

リモコンの準備	26
リモコンに電池を入れる	26
基本的な操作	27
リモコンの操作範囲	27
電源をオン/スタンバイにする	27
OSD(オンスクリーンディスプレイ)を表示する	28
簡単な設定のしかた	29
セットメニュー画面を表示する	29
メモリー(MEMORY)を呼び出す ...	30
イーザーセットアップで設定する	32
音量について	39
音量を調節する	39
一時的に消音する	39
ソースを再生する	40
再生したい機器を切り替える	40
テレビまたはDVDを楽しむ	40
サラウンド再生を楽しむ	41
内蔵デコーダーとインジケーター表示	41
2チャンネルソースをマルチチャンネルで楽しむ	41
サラウンドモードのパラメーターを変更する	42
その他の再生のしかた	42
夜間に小音量でサラウンドを楽しむ(ナイトリスニングモード)	42
ビームモードの設定を変更する	43
ステレオモード	43
3ビームモード	43
5ビームモード	44
ST(ステレオ)+3ビームモード	44

進んだ使い方

高度な設定のしかた	45
マニュアルセットメニュー一覧	45
SOUND MENU(サウンドメニュー)	
.....	46
BEAM MENU(ビームメニュー)	49
INPUT MENU(インプットメニュー)	
.....	54
OPTION MENU(オプションメニュー)	
.....	56
設定した内容を初期化する	57
音声信号の種類を選ぶ	58
音のバランスを調節する	59
テストトーンを使って調節する	59
再生しながら調節する	60
一定時間後に自動的にスタンバイ状態にする (スリープタイマー)	61
スリープタイマーを設定する	61
スリープタイマーを解除する	61
本機のリモコンで外部機器を操作する	
.....	62
リモコンコードを登録する	62
設定した機器を操作する	63

付録

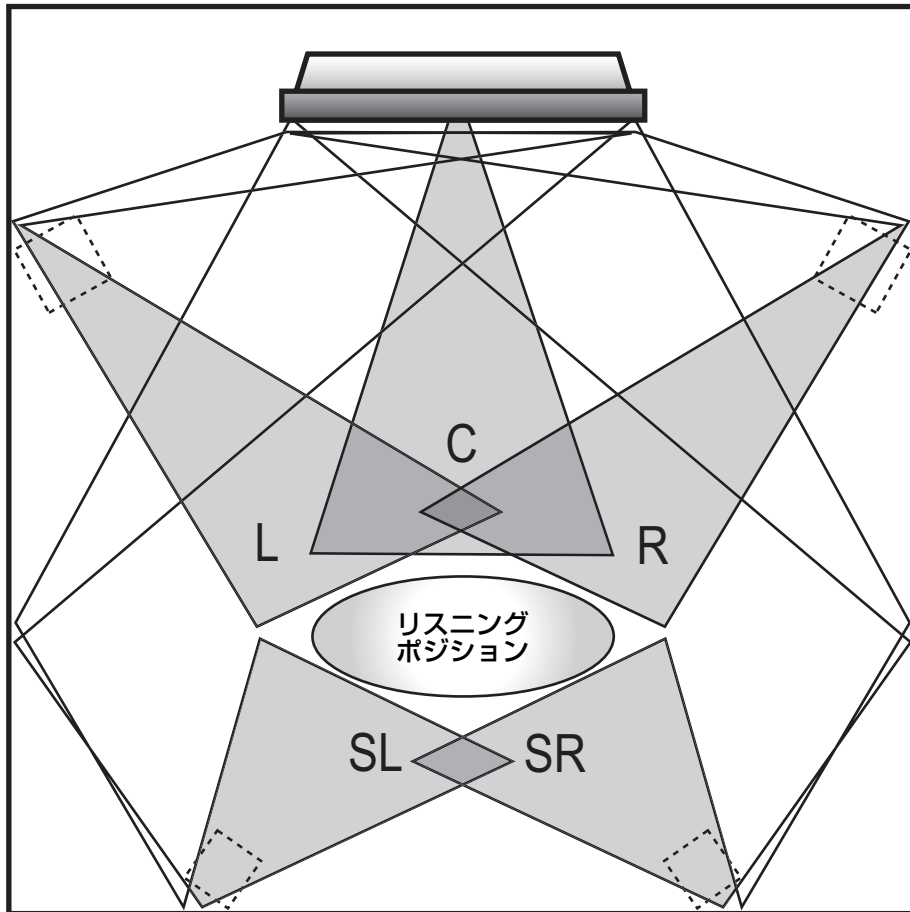
故障かな？と思ったら	65
全般	65
リモコン	67
技術/用語解説	68
主な仕様	70
リモコンコード一覧	71
フロントパネルディスプレイ表示一覧	
.....	72
索引	74

はじめに

映画館にいるようなサラウンド空間を実現するためには、いくつものスピーカーをそろえ、それらを配線し、リスニングルームのあちこちに設置するのが従来のマルチチャンネルサラウンドシステムの常識と考えられてきました。

その常識を打ち破り、煩雑なスピーカーの設置やわずらわしい配線といったネガティブな要素を取りのぞいたのがYAMAHAデジタルサウンドプロジェクター「YSP-1」です。

音声ビームイメージ



仮想フロントスピーカー位置



仮想サラウンドスピーカー位置

複雑な配線やその取り回しに悩まされることがないのはもちろん、内蔵した2個のウーファーと40個の小口径スピーカーをアレー(格子)状に配置することにより、スリムなデザインと大迫力のサラウンドサウンドを実現しています。

アレー状に配置した小口径スピーカーのひとつひとつの遅延時間を微妙にコントロールすることによって、小口径スピーカー全体でチャンネルごとに指向性の高い音声を作り出します。(これを音声のビーム化と呼びます。)

ビーム化されたチャンネル音声の指向性(ビームの角度)は、遅延時間を変えることによって調整しています。

フロントライト(R)、フロントレフト(L)、サラウンドライト(SR)、サラウンドレフト(SL)のそれぞれのチャンネル音声に対して音声のビーム化を行い、投影されたビームはリスニングルームの壁に反射してリスニングポジションに向かいます。

そして、ビーム化されたセンターチャンネル(C)の音声を加えて、5.1チャンネルのリアルサラウンドを創造します。

これにより、まるでリスニングルームの壁の位置にスピーカーを配置したかのようなサラウンド空間を実現します。

いろいろな番組、コンテンツやリスニング環境にあわせて、音声ビームの壁への投影のしかた(これをビームモードと呼びます。)を変えることにより、ステレオ再生から5.1チャンネルサラウンド再生までの臨場感をお選びいただくことができます。

リスニング環境にあわせた設定は、セットメニューの「メモリー(MEMORY)」、「イージーセットアップ(EASY SETUP)」、「マニュアルセットアップ(MANUAL SETUP)」の3つの方法で行うことができます。「メモリー」では、あらかじめ記憶されているリスニング環境を呼び出すだけで、お手軽に設定ができます。「イージーセットアップ」では、リスニング環境をメニューにしたがって登録していくだけで、簡単に設定ができます。「マニュアルセットアップ」では、ビームの音を聞きながら、チャンネル毎に詳細な設定をすることができます。

また、DVDの基本フォーマットであるドルビーデジタル、リアルなサラウンドを実現するドルビープロロジック、クリアな音質が特徴のDTS、BSデジタル放送に採用されているAACなど、多彩な音響技術に対応しています。

入力端子は光デジタル×2、同軸デジタル×1、アナログ×2を装備し、DVDプレーヤー、テレビ、ビデオ、BSデジタルチューナーなどを直接本機に接続することができます。

YSP-1の機能をフルに活用し、すっきりとしたお洒落な空間で、部屋いっぱいに広がるリアルサラウンドの醍醐味を存分にお楽しみください。

リスニングルームの条件

本機は投影したビームを壁に反射させてサラウンドを実現するという特性上、以下のような部屋では十分なサラウンド効果が得られなかったり、まったく得られない場合があります。

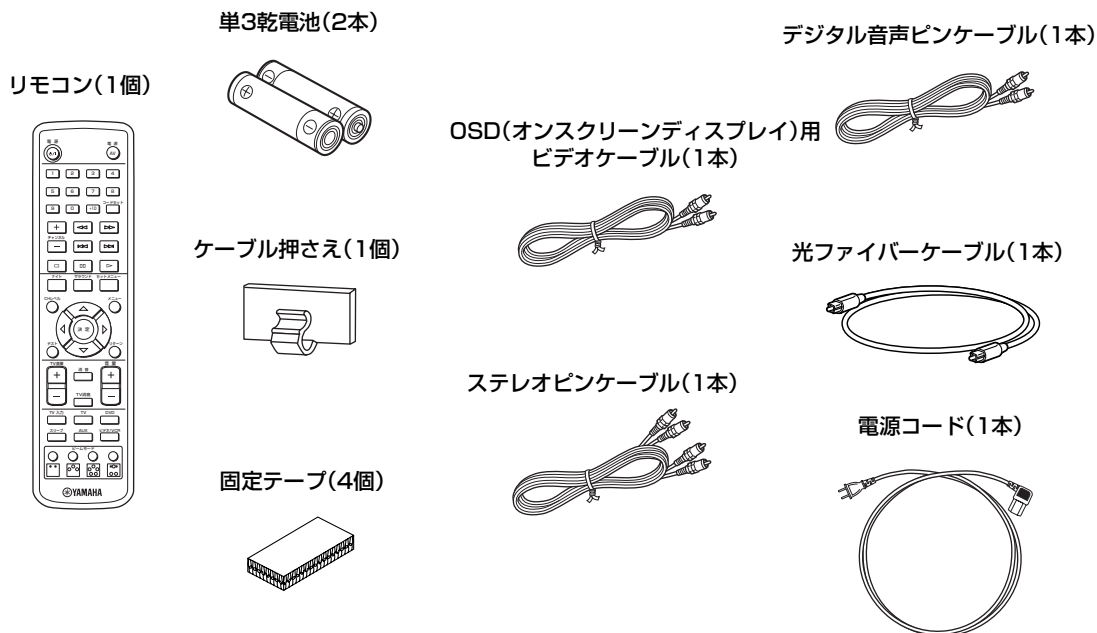
- ・ ビーム経路上に壁がない部屋
- ・ 壁の材質が吸音素材でできている部屋
- ・ 部屋の大きさが幅3m～7m、奥行き3m～7m、高さ2m～3.5mにあてはまらない部屋
- ・ スピーカーからリスニングポジションまでの距離が2m未満の部屋
- ・ ビーム経路上に家具などの障害物がある部屋

本書の記載について

- ・ 本書はYSP-1の設置・接続および操作方法について説明しています。他の外部機器の操作方法については、各機器に付属している取扱説明書をご参照ください。
- ・ 本書では、本体とリモコンのどちらでも操作できる場合は、リモコンでの操作を中心に記載しています。
- ・ 「ご注意」では操作・設定を行う際に留意すべき事項、「※ヒント」では知っておくと便利な補足情報を記載しています。
- ・ 本書は製品の生産に先がけて生産されたものです。製品改良などの理由で実際の製品や梱包箱と内容が一部異なる場合がございますのでご了承ください。

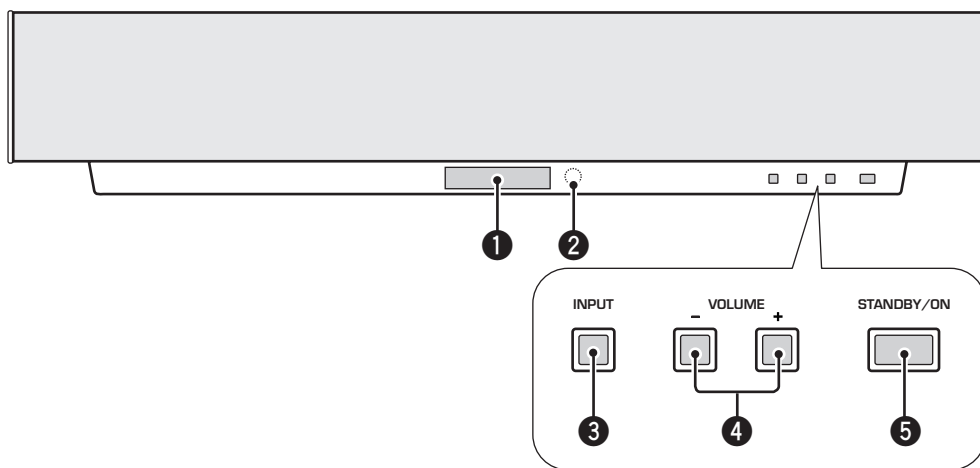
付属品を確認する

同梱されている付属品がすべてそろっていることをご確認ください。



各部の名称とはたらき

前面(フロントパネル)



① ディスプレイ

さまざまな情報を表示します。

② リモコン受光窓

リモコンの信号を受信します。

③ INPUTキー

接続した機器の音声を切り替えます。

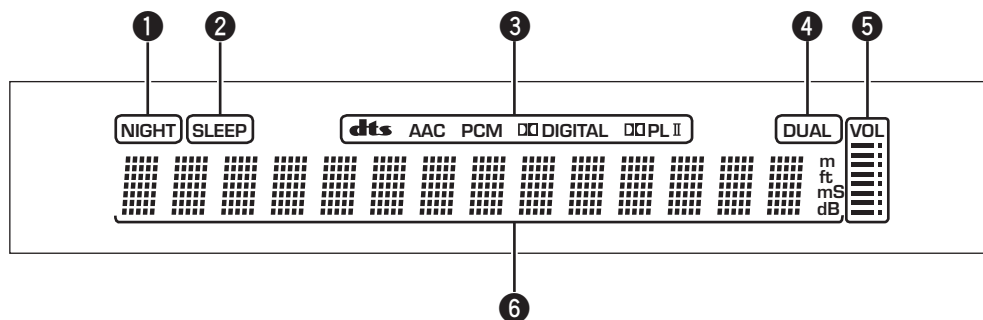
④ VOLUME+/-キー

音量を調節します(39ページ)。

⑤ STANDBY/ONキー

本機の電源をオン/スタンバイにします(27ページ)。

ディスプレイ



① NIGHTインジケター

ナイトリスニングモードで再生しているときに点灯します(42ページ)。

② SLEEPインジケター

スリープタイマー設定時に点灯します(61ページ)。

③ デコーダーインジケター

本機に内蔵のデコーダーが作動しているときにそれぞれのインジケターが点灯します。

④ DUALインジケター

BS/CS/地上波デジタルの音声多重放送が入力されているときに点灯します。

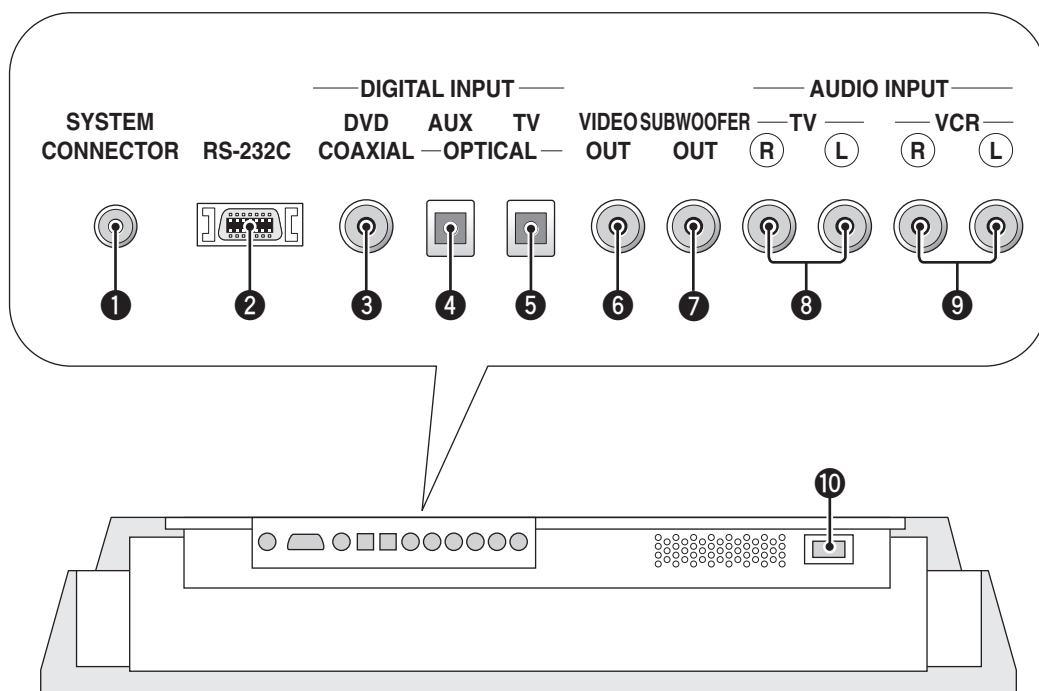
⑤ VOLUMEインジケター

現在の音量を表示します(39ページ)。

⑥ マルチインフォメーションディスプレイ

設定値などの情報を表示します。

底面



① システム接続端子

ヤマハ製のシステム接続端子があるサブウーファーとシステム接続をするときに使います(24ページ)。

② RS-232C端子

工場でのサービスに使用します。通常外部機器との接続に用いることはありません(25ページ)。

③ DVD接続用同軸デジタル端子

DVDと同軸デジタル接続します(21ページ)。

④ AUX接続用光デジタル端子

外部機器と光デジタル接続します(23ページ)。

⑤ テレビ接続用光デジタル端子

テレビと光デジタル接続します(20ページ)。

⑥ OSD用映像出力端子

テレビの映像入力端子と接続してOSDを表示します(20ページ)。

⑦ サブウーファー用音声出力端子

サブウーファーと接続します(24ページ)。

⑧ テレビ接続用アナログ端子

テレビとアナログ接続します(20ページ)。

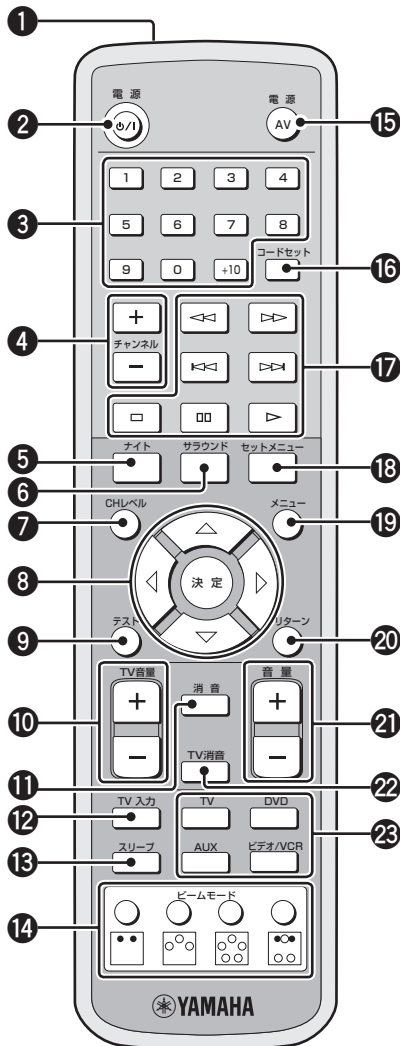
⑨ ビデオデッキ接続用アナログ端子

ビデオデッキとアナログ接続します(22ページ)。

⑩ AC IN 端子

電源コードを接続します(25ページ)。

リモコン



① 赤外線送受信部

リモコン操作用の赤外線信号を送受信します。

② 電源キー

本機の電源をオン/スタンバイにします(27ページ)。

③ 数字キー

数字を入力します。

④ チャンネル+/-キー

テレビやビデオのチャンネルを切り替えます。

⑤ ナイトキー

夜間など、小音量で音声を楽しむときに押します(42ページ)。

⑥ サラウンドキー

サラウンドモードを選択します(41ページ)。

⑦ CH レベルキー

各チャンネルの音量を調節します(60ページ)。

⑧ カーソル(△/▽/◀/▶)キー/決定キー
セットメニューを選択するときなどに使います。

セットメニュー画面上では、△/▽/◀/▶はカーソル(△/▽/◀/▶)キーを、SELECTは決定キーを表しています。

⑨ テストキー

テストトーンを出力します(59ページ)。

⑩ テレビ 音量+/-キー

テレビのボリュームを調節します(63ページ)。

⑪ 消音キー

本機の音声を一時的に消音します(39ページ)。

⑬ スリープキー

スリープタイマーを設定します(61ページ)。

⑭ ビームモードキー

ビームモードの設定を変更します(43ページ)。

⑮ AV 電源キー

選択した機器の電源をオン/スタンバイにします(63ページ～64ページ)。

⑯ コードセットキー

リモコンコードを登録するときに使います(62ページ)。

⑰ DVD、ビデオデッキ操作キー

再生、停止など、DVDやビデオの基本的な操作に使います(63ページ～64ページ)。

⑱ セットメニューキー

セットメニューをテレビ画面に表示します(29ページ)。

⑲ メニューキー

DVDメニューを表示します(63ページ)。

⑳ リターンキー

スリープタイマーの設定を決定するときや(61ページ)、セットメニューで前の画面に戻るときなどに押します(29ページ)。

㉑ 音量＋/－キー

本機の音量を調節します(39ページ)。

㉒ TV 消音キー

テレビの音量を一時的に消音します(63ページ)。

㉓ 入力選択キー

再生する機器を選択します(40ページ)。

※ヒント

リモコンコードを設定すれば、本機のリモコンで外部機器を操作することができます(62ページ)。

本機をリスニングルームに設置する

ここでは本機の設置方法について説明します。下記の「設置上のご注意」を参照のうえ、安全な場所に正しく設置してください。なお、ビーム経路上に家具などの障害物があると適切なサラウンド効果が得られない場合がありますので、ビームの経路を考慮した上で設置位置を決定してください。

設置上のご注意

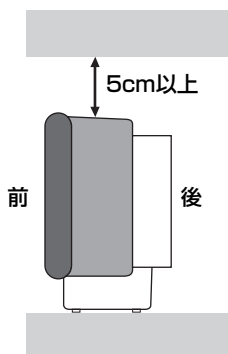
本機の設置には、十分な放熱スペースが必要です。右図のように、本機の上部(または下部)に5cm以上スペースが開くように設置してください。

また本機では、床に直接設置するのは避けて、壁掛け金具やスタンド、ラックなどを使用して設置してください。

本機は13kgの重さがあります。地震などの振動やお子様の接触などで本機が落下しないように設置してください。

ブラウン管式テレビの上へは直接設置しないでください。

本機は、防磁型設計となっておりますが、万一テレビに色ムラなどが生じるときは、テレビとスピーカーの距離を離してご使用ください。



設置場所を決める

十分なサラウンド効果を得るために、下図のように家具などの障害物がビーム経路と重ならない場所に設置してください。

本機を壁と平行に設置する場合には、できるだけ左右の壁の中央に設置し、本機が左右の壁に近づきすぎないようにしてください。

スピーカーを部屋のコーナーに設置する場合には、スピーカーと、隣接する壁との角度が40°～50°の間におさまるように設置してください。

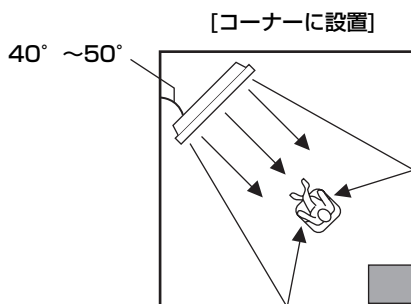
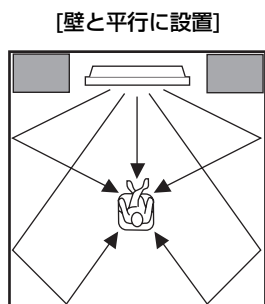
※ヒント

設置する場所によって、選択できるビームモード(43ページ)は以下のように変わります。

[壁と平行に設置する場合] ステレオモード、3ビームモード、5ビームモード、ST+3ビームモード

[コーナーに設置する場合] ステレオモード、ST+3ビームモード

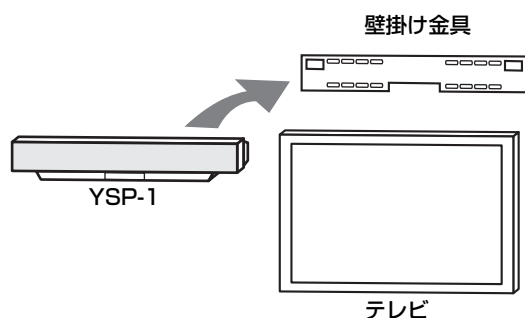
■ 家具などの障害物



壁掛け金具を使用して設置する

オプションの壁掛け金具を使って本機を壁に設置します。

壁掛け金具の壁への取り付けや、壁掛け金具への本機の取り付けについては、壁掛け金具に付属している取扱説明書をご参照ください。

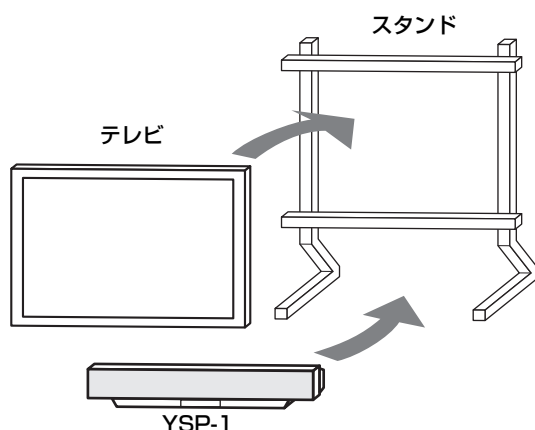


スタンドを使用して設置する

市販のラックの上に設置したスタンドにテレビを取り付け、本機をテレビの下に設置します。

スタンドの設置やテレビと本機の取り付けについては、スタンドに付属している取扱説明書をご参照ください。

スタンドは本機を設置するのに十分なスペースを持ったものをお買い求めください。

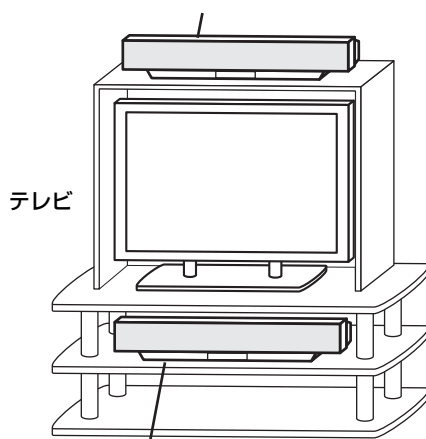


ラックを使用して設置する

市販のラックを使用して、本機をテレビの上または下に設置します。

ラックは本機を設置するのに十分なサイズと放熱スペース、本機とテレビを設置するのに十分な強度を持ったものをお買い求めください。

YSP-1を上を設置した場合



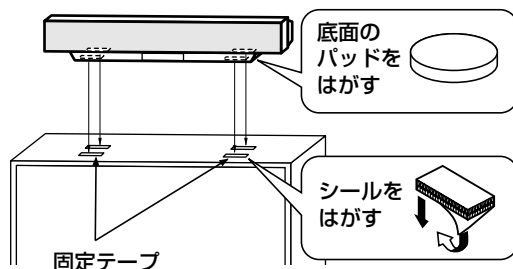
YSP-1を下に設置した場合

本機を固定する

本機底面のパッドをはがしてから、下図のように付属の固定テープ(4個)を本機の底面四隅とラック等の上面に貼り、固定してください。

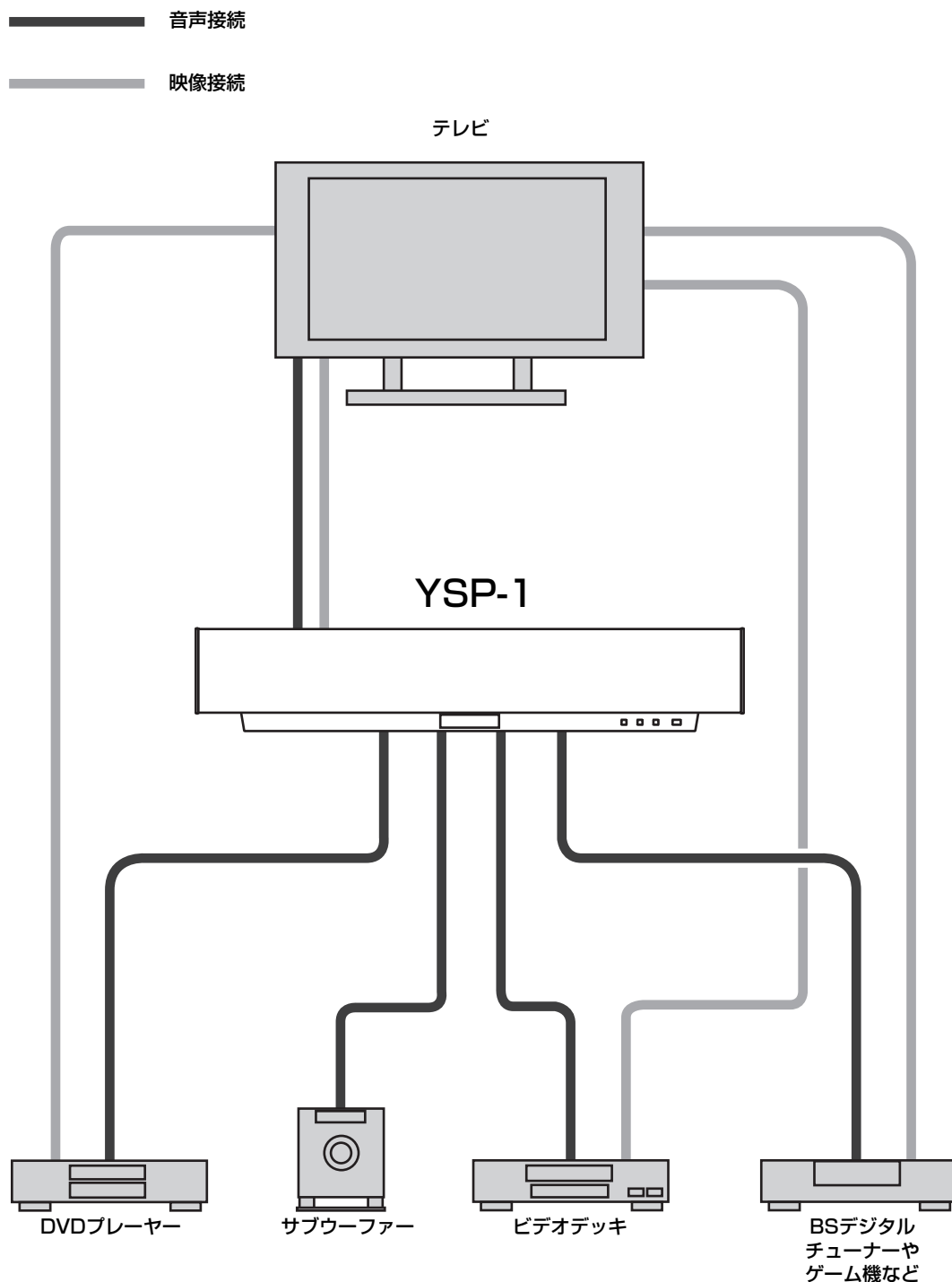
ご注意

- ・ 上面が傾いたラックの上には設置しないでください。本機が落下するとけがの原因になります。
- ・ 固定テープを貼る前に、ラック等の上面をきれいに拭いてください。もし表面が汚れていたり、または濡れていたりすると、テープの接着力が弱まり、本機が落下する原因になります。



接続する

本機は光デジタル端子を2系統、同軸デジタル端子を1系統、アナログ端子を2系統装備しています。それらを利用してテレビやDVDプレーヤー、ビデオデッキ、BSデジタルチューナーやゲーム機などを接続してください。また、サブウーファーを本機に接続すると、よりダイナミックな低音を楽しむことができます。本機とそれぞれの機器の詳しい接続方法については20ページ～25ページを参照してください。



テレビを接続する

音声用と映像用の接続をします。

音声用として、テレビのアナログ音声出力端子と本機のアナログ音声入力端子(TV R/L端子)を接続します。テレビに光デジタル接続端子がある場合は、アナログ接続に加えて、テレビの光デジタル出力端子と本機的光デジタル入力端子(TV OPTICAL端子)を接続してください。デジタル放送受信時にデジタル音声信号を本機に入力することができます。光ファイバーケーブルはケーブル部分を本機背面に取り付けた付属のケーブル押さえで受けるようにすると、脱落防止になります。ケーブル押さえの取り付けについては23ページをご参照ください。

映像用は、テレビの映像入力端子と本機の映像出力端子(VIDEO OUT端子)を付属のOSD用ビデオケーブルで接続します。映像用の接続をすることにより、テレビ画面にOSDを表示し(28ページ)、いろいろな情報を見ることができたり、セットメニューを使って簡単にリスニング環境を設定することができるようになります(29ページ)。

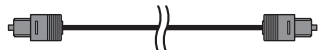
音声接続(デジタル・アナログ)

接続に使うケーブル

ステレオピンケーブル(付属)



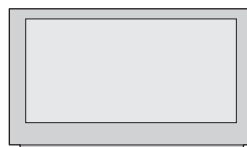
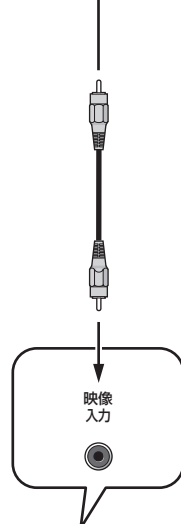
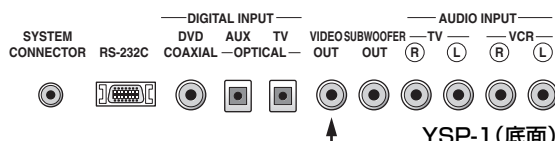
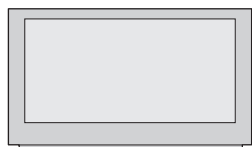
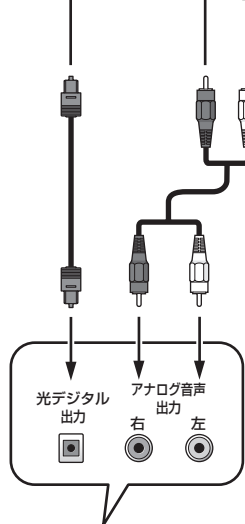
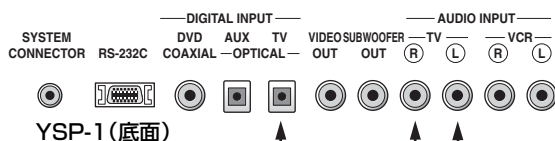
光ファイバーケーブル(付属)



映像接続(OSD用)

接続に使うケーブル

OSD用ビデオケーブル(付属)



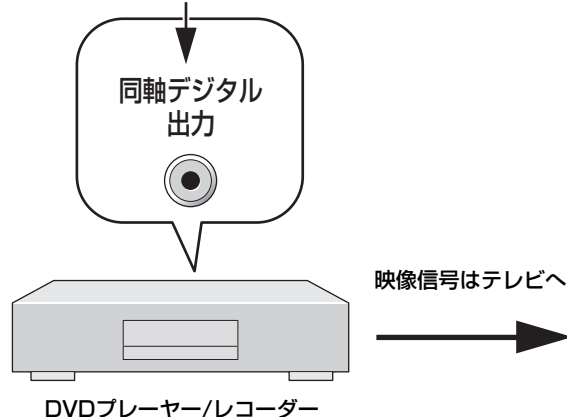
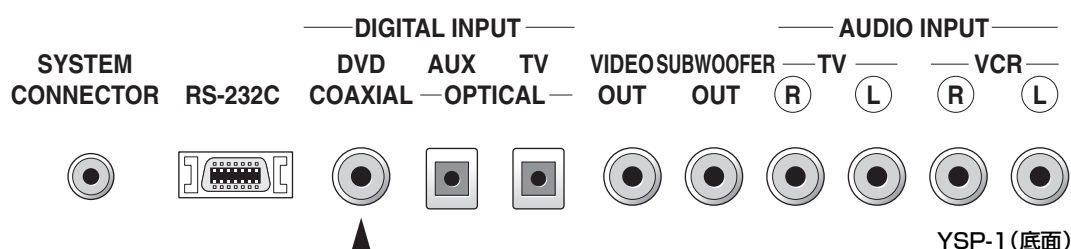
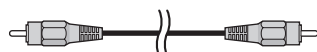
DVDプレーヤー/レコーダーを接続する

DVDプレーヤー/レコーダーの同軸デジタル出力端子と本機の同軸デジタル入力端子(DVD COAXIAL端子)を接続します。

DVDプレーヤー/レコーダーに同軸デジタル出力端子がない場合は光デジタル接続をしてください(23ページ)。

接続に使うケーブル

デジタル音声ピンケーブル(付属)



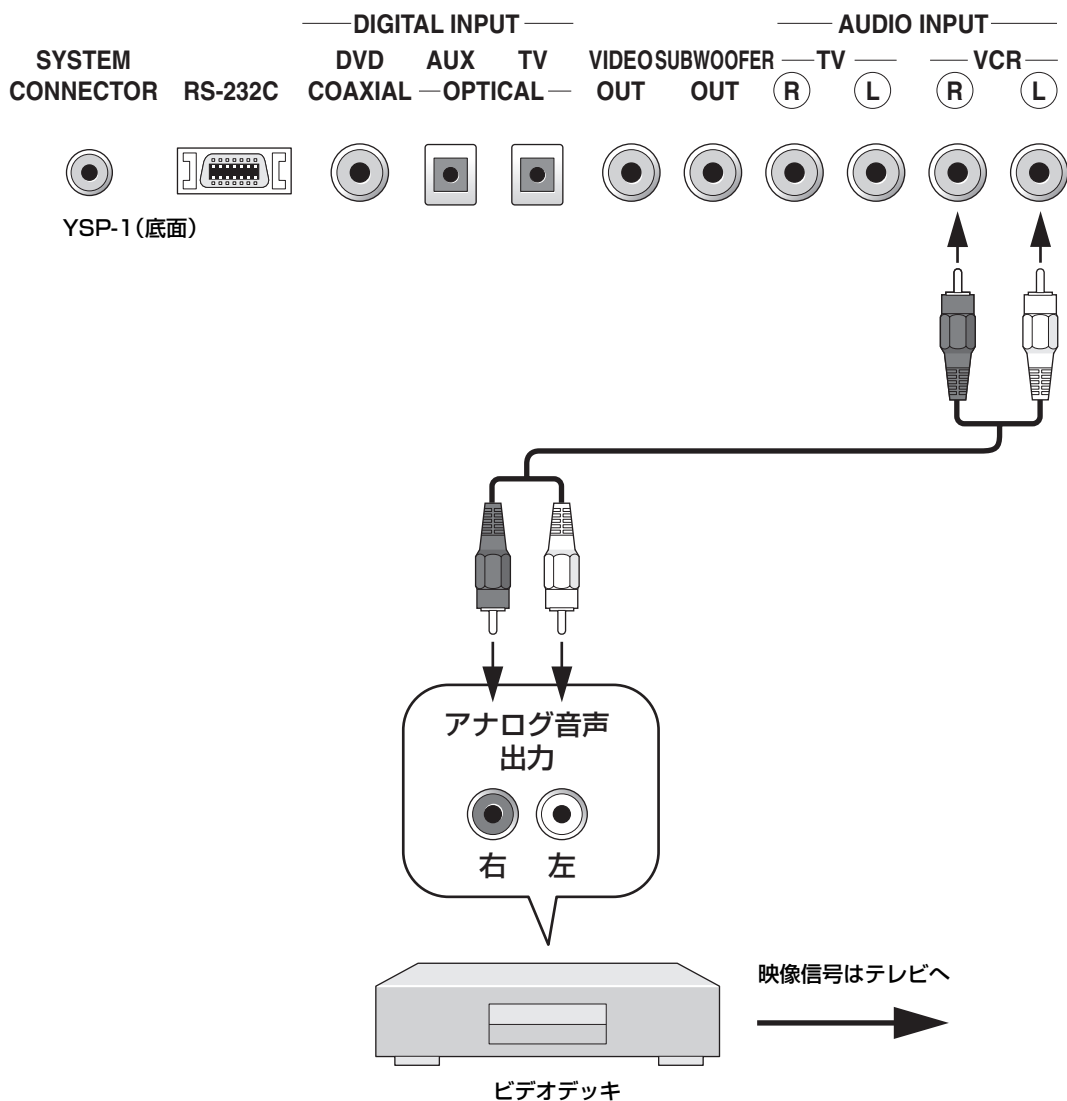
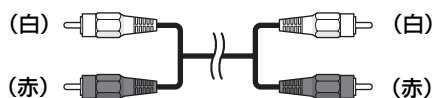
ビデオデッキを接続する

ビデオデッキのアナログ音声出力端子と本機のアナログ音声入力端子(VCR R/L端子)を接続します。

右チャンネル(R)と左チャンネル(L)をよく確認して正しく接続してください。

接続に使うケーブル

ステレオピンケーブル



その他の機器を接続する

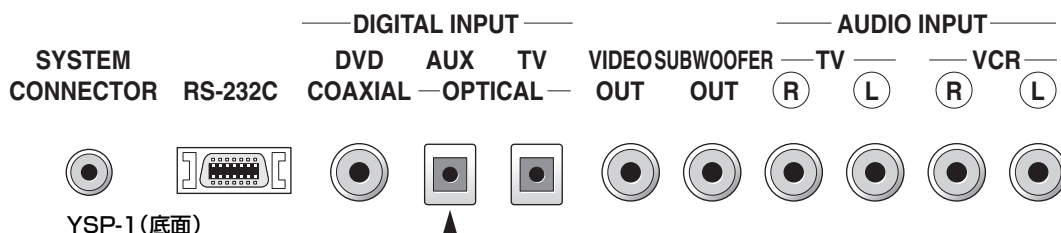
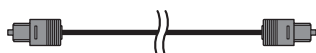
その他の機器の光デジタル出力端子と本機の光デジタル入力端子(AUX OPTICAL端子)を接続します。

DVDプレーヤー/レコーダーを光デジタル接続するときや、光デジタル接続に対応した機器を接続したいときにご利用ください。

DVDプレーヤー/レコーダーを接続した場合は、INPUT ASSIGNMENTの設定をすると便利です(54ページ)。

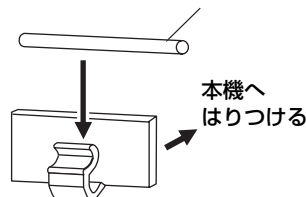
接続に使うケーブル

光ファイバーケーブル

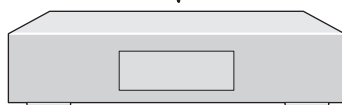


ケーブルの脱落防止のため、付属のケーブル押さえを、口が開いている方を上にして本機背面の適当な位置に取り付け、ケーブルを固定してください。

光ファイバーケーブル



光デジタル
出力



映像信号はテレビへ



BSデジタルチューナー、
CSチューナー、
地上波デジタルチューナー
またはゲーム機など

サブウーファーを接続する

サブウーファーのモノラル入力端子と本機のモノラル音声出力端子(SUBWOOFER OUT 端子)を接続します。

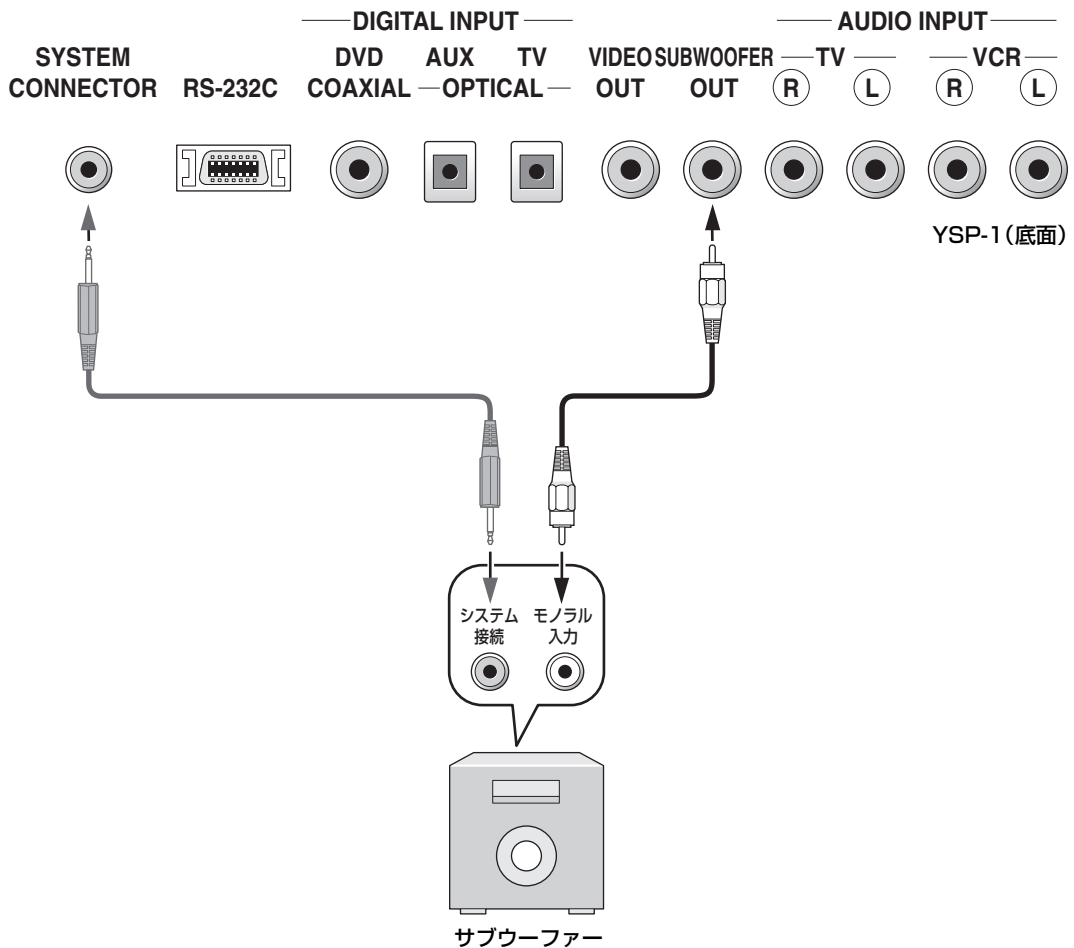
セットメニュー「SUBWOOFER SET」(46ページ)で、サブウーファーに関する設定を変更することができます。

※ヒント

ヤマハ製のシステム接続端子があるサブウーファーを接続する場合は、本機のシステム接続端子(SYSTEM CONNECTOR端子)と接続します。システム接続をすることによって、本機の電源のオン/スタンバイとサブウーファーの電源のオン/スタンバイを連動させることができます。

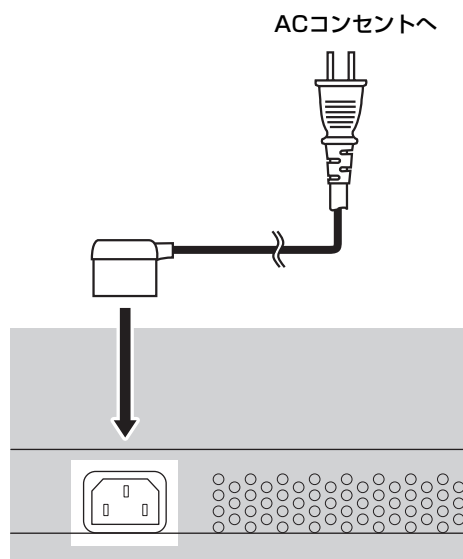
接続に使うケーブル

サブウーファー用ピンケーブル



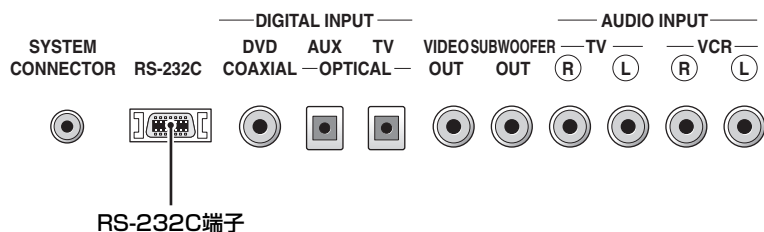
電源コードを接続する

すべての接続が終了したら、電源コードを本機のAC IN端子にしっかりと差し込み、家庭用AC100V、50/60HzのACコンセントに電源プラグを接続します。



RS-232C端子について

RS-232C端子は工場でのサービスに使用します。通常外部機器との接続に用いることはありません。



リモコンの準備

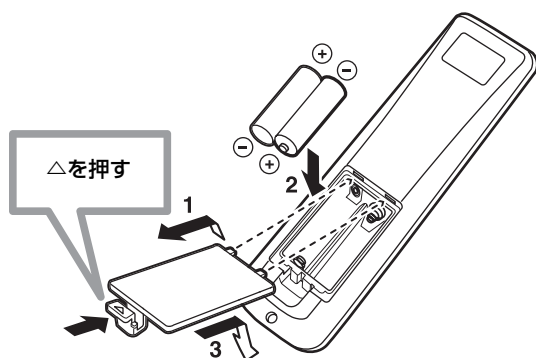
リモコンに電池を入れる

1 バッテリーカバーの△マークを押し
ながら、カバーをリモコンから取り
外す

2 付属の単3乾電池(2本)を、電池
ケースに挿入する

電池の向き(+/-極性)を正しく挿入して
ください。

3 バッテリーカバーをリモコンに装着
する



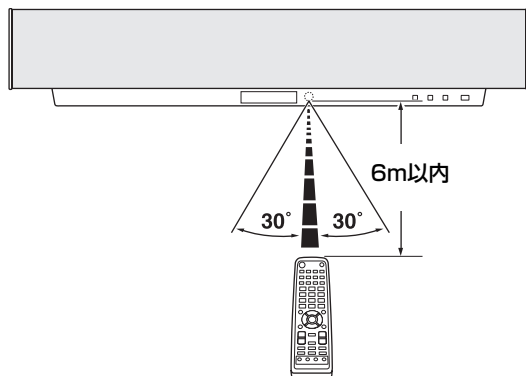
ご注意

- 新しい電池と古い電池を混ぜて使用しないでください。
- 種類の異なる電池(アルカリとマンガンなど)を混ぜて使用しないでください。同じ形状でも性質の異なる場合がありますのでご注意ください。
- 使い切った電池はただちにリモコンから取り出してください。
リモコンに挿入したままにしておくと、破裂や液漏れの原因となります。
- 使い切った電池は地域の条例または取り決めに従って廃棄してください。
- 電池が液漏れしている場合は、ただちに電池をリモコンから取り出し、廃棄してください。その際、肌や衣服が漏れているバッテリー液にふれることのないよう十分ご注意ください。
リモコンにバッテリー液が付着している場合はきれいに拭き取ってから新しい電池を挿入してください。
- リモコンから電池を取り出したら2分以内に新しい電池を挿入してください。これ以上の時間が経過すると、リモコンのメモリー内容が消去されます。

基本的な操作

リモコンの操作範囲

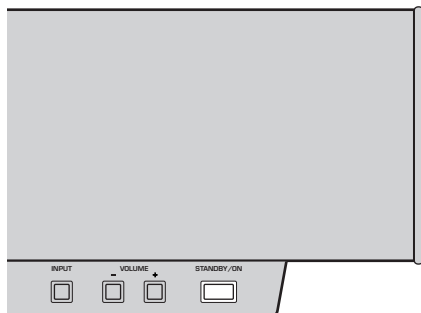
リモコンで本機を操作する際は、リモコンの赤外線送信部を本体のリモコン受光窓(13ページ)に向けます。リモコン操作が可能な範囲は、本体から6m以内で正面から左右に30°以内になります。



ご注意

- リモコンに水や飲み物などをこぼさないようご注意ください。
- リモコンを落としたり、リモコンに強い衝撃を与えたりしないようご注意ください。
- リモコンを以下のような場所に放置しないでください。
 - － 気温・湿度が高い場所(ヒーターの近くや風呂場など)
 - － 極端に気温が低い場所
 - － ほこりっぽい場所
- リモコン受光窓には直射日光や蛍光灯などの強い光が当たらないようにしてください。
- リモコンの電池が消耗すると、リモコンで本機を操作できる距離が極端に短くなります。このような場合、早めに新しい電池と交換してください。

電源をオン/スタンバイにする



本体のSTANDBY/ONキーまたはリモコンの電源キーを押す

押すたびに電源のオン/スタンバイが切り替わります。

STANDBY/ON



本体

または

電源



リモコン

本機について

設置・接続する

準備・基本操作

進んだ使い方

付録

OSD(オンスクリーンディスプレイ)を表示する

本機のVIDEO OUT端子とテレビの映像入力端子を接続することにより(20ページ)、テレビ画面でOSD(ON SCREEN DISPLAY)を見ることができます。

OSDでは、音量や入力選択されている機器名など、さまざまな情報を見ることができたり、セットメニューをテレビ画面上で操作することができます(29ページ)。

OSDが表示されるキーの機能については、表に記載の参照ページをご覧ください。セットメニューの「OSD SHIFT」(56ページ)と「OSD BACK COLOR」(56ページ)で、OSDの設定をすることができます。

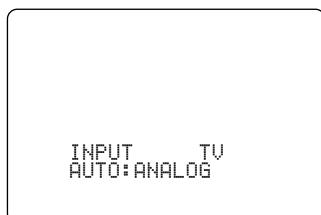
1 テレビの電源を入れる

2 テレビの映像入力切替を操作して本機の映像に切り替える

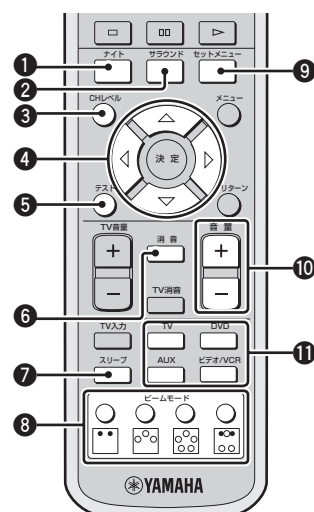
3 各種リモコンキーを押す

テレビ画面にOSDが表示されます。

OSD表示例(入力選択キーの
TVキーを押した場合)



OSDが表示されるキー	参照ページ
① ナイトキー	42
② サラウンドキー	41
③ CHレベルキー	60
④ カーソルキー	—
⑤ テストキー	59
⑥ 消音キー	39
⑦ スリープキー	61
⑧ ビームモードキー	43
⑨ セットメニューキー	29
⑩ 音量+/-キー	39
⑪ 入力選択キー	40



簡単な設定のしかた

リスニングルームの形状と大きさ、本機が設置されている場所などは、ご家庭によってさまざまです。

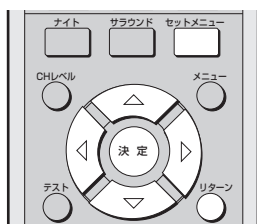
本機では、セットメニューをテレビ画面上に表示させ、それらの条件を本機に登録することによって、リスニング環境にあった最適なサラウンド効果を楽しむことができます。

セットメニューは「メモリー」、「イーザーセットアップ」、「マニュアルセットアップ」の3種類の方法で設定することができます。

セットメニュー画面を表示させたら、最初に「メモリー」の中にご自分のリスニング環境と同じものがないか確認しましょう。

セットメニュー画面を表示する

セットメニューでは以下のリモコンキーを使います。



セットメニューの設定中に前の画面に戻りたいときは、リターンキーを押してください。



セットメニューを操作中に入力切替キーを押してしまい、カーソルキーの操作ができなくなった場合は、テストキーを1回押してください。



1 セットメニューキーを押す

テレビ画面にSET MENU画面が表示されます。

SET MENU画面の下部の表示は操作方法を表しています。

[SELECT]は決定キーを表しています。

セットメニュー



※ヒント

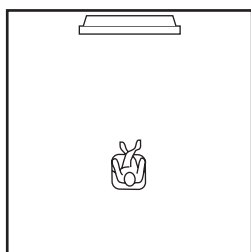
セットメニューはフロントパネルディスプレイを見ながら操作することもできます。

メモリー(MEMORY)を呼び出す

本機には、あらかじめ下図のような設定が記憶されています。この中にご自分のリスニング環境と類似した項目がある場合は、その項目を選択し、登録してください。類似した項目がない場合は、イーージーセットアップ(32ページ)におすすみください。

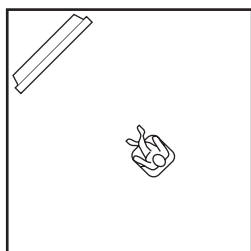
本機の性能をより引き出すには、「イーージーセットアップ(32ページ)」、「BEAM TONE(52ページ)」、「音のバランスを調節する(59ページ)」などで、必要に応じて設定を変更してください。

ユーザー
USER1
(6畳から16畳相当・中央設置)



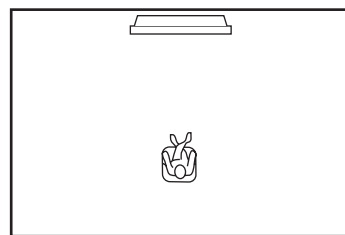
リスニングルームが約6畳(約9.7m²*)～16畳(約25.9m²*)の正方形で本機が中央に設置されている場合は「USER1」を選択します。

ユーザー
USER2
(6畳から16畳相当・コーナー設置)



リスニングルームが約6畳(約9.7m²*)～16畳(約25.9m²*)の正方形で本機がコーナーに設置されている場合は「USER2」を選択します。

ユーザー
USER3
(横長12畳以上・中央設置)

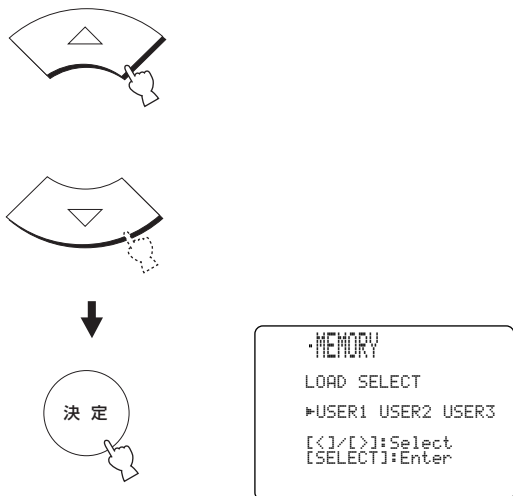


リスニングルームが約12畳(約19.4m²*)以上の横長の部屋で本機が中央に設置されている場合は「USER3」を選択します。

* 1畳：1.8m×0.9m=1.62m²で換算

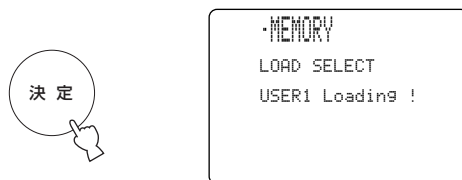
2 ▲ / ▼ キーを押して、MEMORY を選択し、決定キーを押す

テレビ画面に下のような画面が表示されます。



4 もう一度決定キーを押す

選択した項目の条件が本機に登録されます。

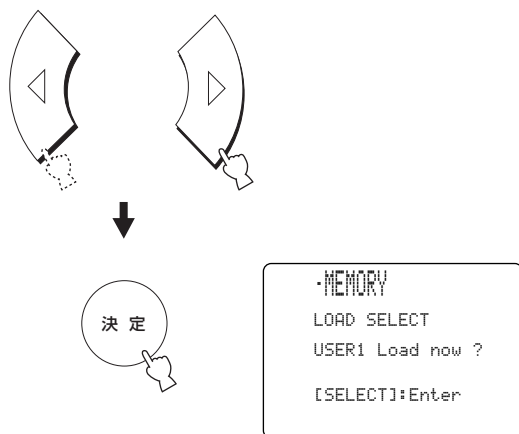


登録されると下の初期画面に戻ります



3 ◀ / ▶ キーを押して、登録したい項目を選択し、決定キーを押す

それぞれの項目のリスニング条件は30ページのように記憶されています。



5 セットメニューキーを押す

テレビ画面のSET MENU画面が消えます。



イージーセットアップで設定する

メモリーでご自分のリスニングルームと類似した項目がない場合は、イージーセットアップで設定をします。イージーセットアップでは、以下の流れにそって項目を選択していくことで、自動的にビームの方向や音の強弱などを調節し、まるで各チャンネルごとのスピーカーをリスニングルームの壁に配置したかのようなビームの設定をすることができます。

ROOM TYPE(部屋の形状)→SP POSITION(本機の位置)→ROOM SIZE(部屋の大きさ)

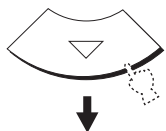
では、まずはROOM TYPE(部屋の形状)から設定していきましょう。

ルーム タイプ ROOM TYPE(部屋の形状)

イージーセットアップを設定する前に、セットメニュー画面を表示します(29ページ)。



6 △ / ▽ キーを押して、**EASY SETUP**を選択し、決定キーを押す
テレビ画面に以下のような画面が表示されます。



7 もう一度決定キーを押す

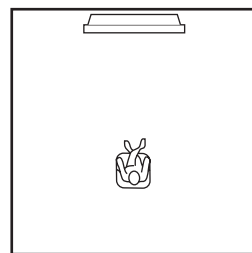
スクエア レクタングル
「SQUARE」と「RECTANGLE」の選択画面が表示されます。



スクエア SQUARE(正方形の部屋)

リスニングルームが正方形に近い場合は

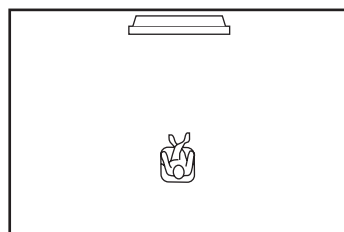
スクエア
「SQUARE」を選択します。



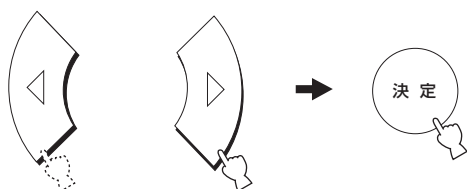
レクタングル RECTANGLE(長方形の部屋)

リスニングルームが長方形に近い場合は

レクタングル
「RECTANGLE」を選択します。



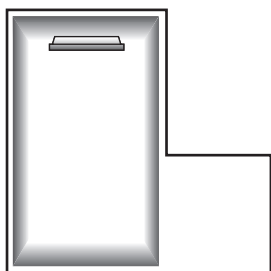
8 ◀/▶キーを押して、設定したい項目を選択し、決定キーを押す



「SQUARE」と「RECTANGLE」の中から、リスニングルームの形状に近いほうをお選びください。

例1のように形状が変則的な場合や、例2のように本機が壁からはなれた場所にある場合は、図のように仮想的な形状を想定してください。

例1



例1の場合は、長方形に近いので「RECTANGLE」を選択します。

例2



例2の場合は、正方形に近いので「SQUARE」を選択します。

「ROOM TYPE(部屋の形状)」は設定できましたか？

設定ができたなら次の項目、「SP POSITION (本機の位置)」にすすみましょう(34ページ)。

本機について

設置・接続する

準備・基本操作

進んだ使い方

付録

スピーカー ポジション

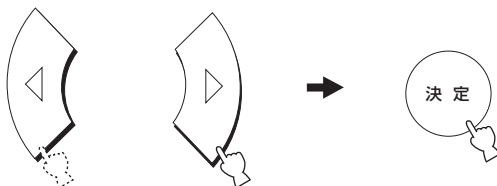
SP POSITION(本機の位置)

ROOM TYPE(部屋の形状)が設定できたら、下のような画面が表示されているのをご確認ください。(※の右側の表示は選択した項目によって変化します。)

確認したら、次に本機の設置位置を設定しましょう。



10 ◀/▶キーを押して、実際の本機の設置位置ともっとも近い項目を選択し、決定キーを押す



9 決定キーを押す

「ROOM TYPE(部屋の形状)」で

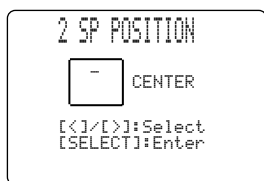
「SQUARE」(正方形)を選択した場合は、

次ページの「SQUARE」にある、4種類の選択項目が表示されます。

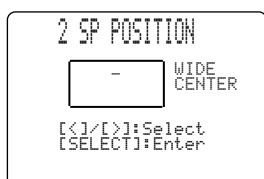
「RECTANGLE」(長方形)を選択した場合

は、次ページの「RECTANGLE」にある、8種類の選択項目が表示されます。

「SQUARE」(正方形)を選択した場合



「RECTANGLE」(長方形)を選択した場合



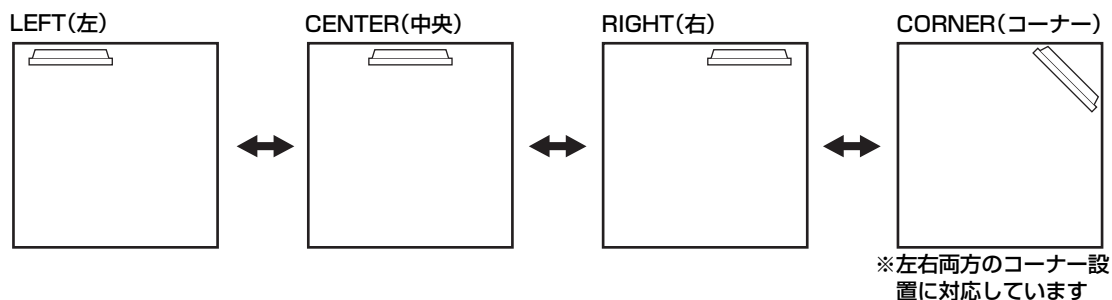
「SP POSITION(本機の位置)」は設定できましたか？

設定ができたなら次の項目、「ROOM SIZE(部屋の大きさ)」にすすみましょう(36ページ)。

スクエア

SQUARE(正方形の部屋)

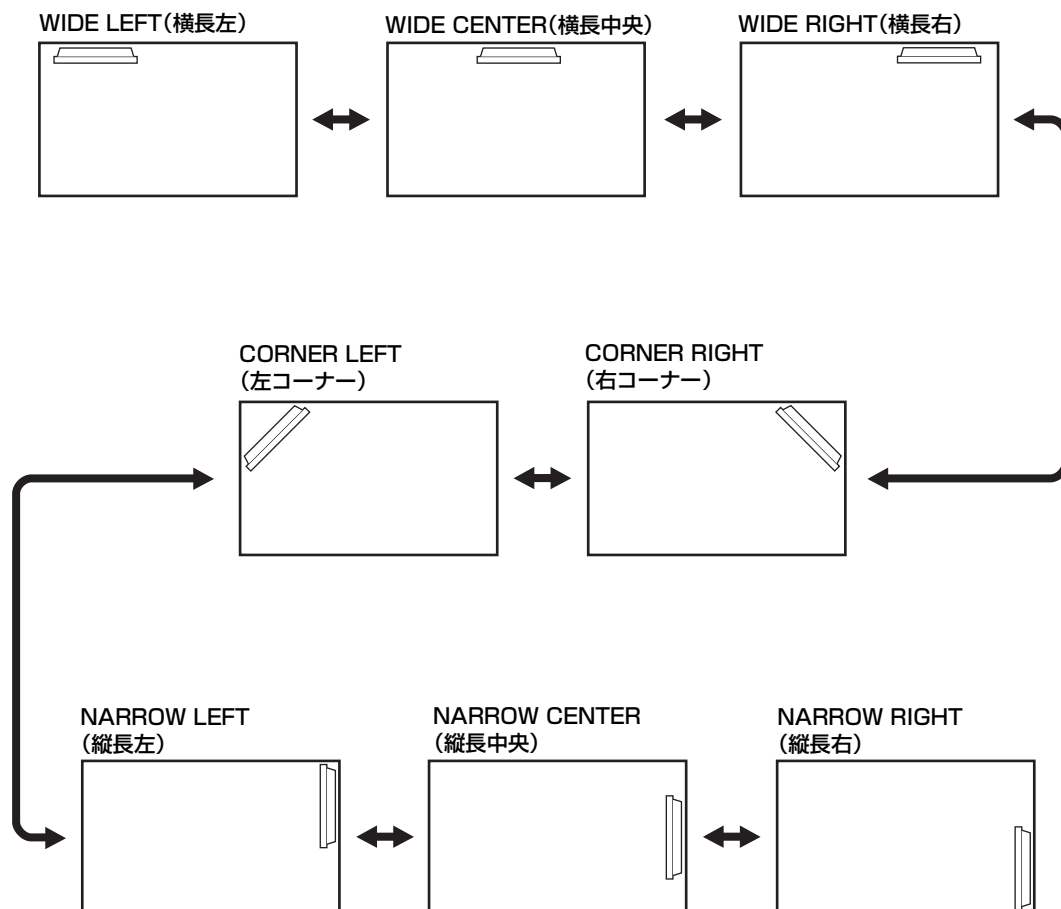
「ROOM TYPE(部屋の形状)」で「SQUARE」を選択した場合



レクタングル

RECTANGLE(長方形の部屋)

「ROOM TYPE(部屋の形状)」で「RECTANGLE」を選択した場合



本機について

設置・接続する

準備・基本操作

進んだ使い方

付録

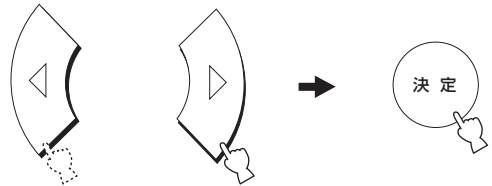
ルーム サイズ ROOM SIZE(部屋の大きさ)

「SP POSITION(本機の位置)」が設定できたら、下のような画面が表示されているのをご確認ください。

確認したら、次に部屋の大きさを設定しましょう。



12 ◀/▶キーを押して、リスニング ルームの大きさにもっとも近い項目 を選択し、決定キーを押す



11 決定キーを押す

「ROOM TYPE(部屋の形状)」で

スクエア
「SQUARE」を選択した場合は、次ページの「SMALL」、「MID」、「LARGE」の正方形が表示されます。

レクタングル
「RECTANGLE」を選択した場合は、次ページの「SMALL」、「MID」、「LARGE」の長方形が表示されます。

「SQUARE」を選択した場合



「RECTANGLE」を選択した場合



「ROOM SIZE(部屋の大きさ)」は設定できましたか？

設定ができればこれまで行ってきた3つの設定を本機に登録しましょう(38ページ)。

スモール
SMALL

リスニングルームがおよそ6畳から(約9.7m²*)10畳(約16.2m²*)の正方形または長方形の場合はSMALLを選択します。

6畳～10畳の
正方形



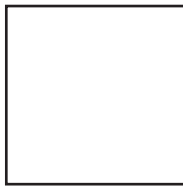
6畳～10畳の
長方形



ミッド
MID

リスニングルームがおよそ11畳(約17.8m²*)から18畳(約29.2m²*)の正方形または長方形の場合はMIDを選択します。

11畳～18畳の
正方形



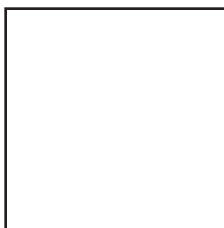
11畳～18畳の
長方形



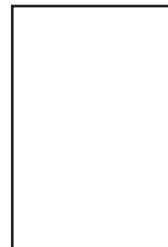
ラージ
LARGE

リスニングルームがおよそ19畳(約30.8m²*)から28畳(約45.4m²*)の正方形または長方形の場合はLARGEを選択します。

19畳～28畳の
正方形



19畳～28畳の
長方形



* 1畳：1.8m×0.9m=1.62m²で換算

セットアップ

SETUP OK(設定登録)

「ROOM TYPE(部屋の形状)」、「SP POSITION(本機の位置)」、「ROOM SIZE(部屋の大きさ)」が設定できたら、下のような画面が表示されているのをご確認ください。確認したら、これまで設定してきた内容を本機に登録しましょう。



設定が有効になり、初期画面に戻ります。



「NO」を選択すると設定が無効になり、初期画面に戻ります。

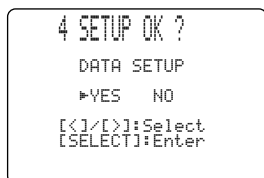
前の画面に戻って設定をやり直したい場合は、リターンキーを押してください。

リターン



13 決定キーを押す

以下のような画面が表示されます。



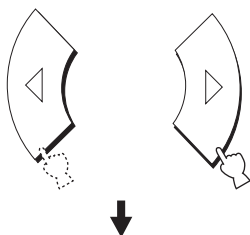
15 セットメニューキーを押してセットメニューの操作を終了する

セットメニュー



14 ◀/▶キーを押して、「YES」を選択し、決定キーを押す

以下のような画面が表示されます。



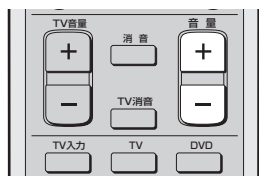
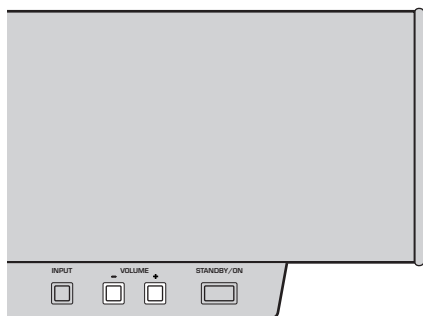
テレビ画面のSET MENU画面が消えます。

これでイージーセットアップの設定は終了です。イージーセットアップによって、本機はリスニングルームの環境にぴったり合うように設定されました。

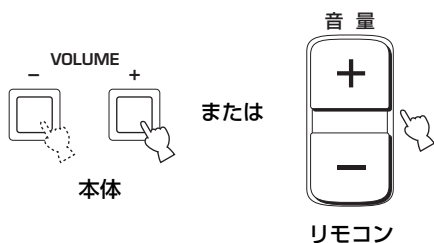
さっそくソースを再生して、サラウンドサウンドを楽しみましょう。

音量について

音量を調節する

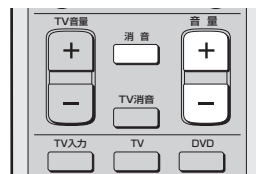


音量を上げるには本体のVOLUME＋キーまたはリモコンの音量＋キー、下げるには本体のVOLUME－キーまたはリモコンの音量－キーを押す。



VOLUME -40.0dB VOL

一時的に消音する



消音キーを押す

消音キーを押すと、フロントパネルディスプレイに「AUDIO MUTE ON」と表示され、VOLUMEインジケータが点滅します。



AUDIO MUTE ON

消音を解除してもとの音量に戻すには

消音キーを再度押すか、消音＋／－キーなどのキーを押します。

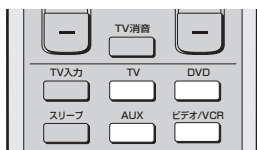
※ヒント

セットメニュー「MUTE LEVEL」(48ページ)で、消音キーを押したときに完全に音を消音するか、－20dB下げるかを選択することができます。

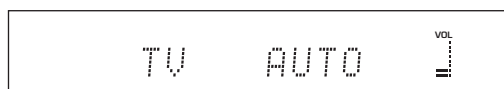
ソースを再生する

再生したい機器を切り替える

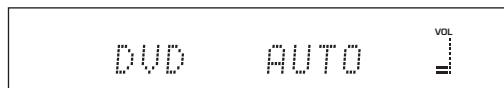
TVキー、DVDキー、ビデオ/VCRキー、AUXキーを押すと、本機に接続したそれぞれの機器の入力を選択し、音声を再生することができます。



テレビを再生したい場合は
TVキーを押す。



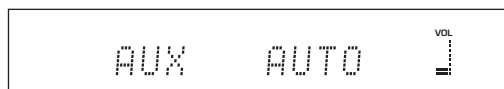
DVDプレーヤーを再生したい場合は
DVDキーを押す。



ビデオデッキを再生したい場合は
ビデオ/VCRキーを押す。



AUX端子に接続した機器を再生したい場合は
AUXキーを押す。



テレビまたはDVDを楽しむ

ソースを再生する例として、ここではテレビまたはDVDプレーヤーを再生します。

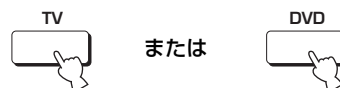
テレビやDVDプレーヤーの機能については、ご使用のテレビやDVDプレーヤーに付属している取扱説明書をご参照ください。

1 テレビ:見たいチャンネルを選ぶ DVD:テレビの映像入力切替を操作してDVDプレーヤーの映像に切り替える

テレビに付属のリモコンをお使いください。

2 テレビ:リモコンのTVキーを押す DVD:リモコンのDVDキーを押してから、DVDを再生する

選択された入力機器の再生モードに切り替わります。



3 テレビ:テレビのスピーカーから音声が聞こえる場合は、聞こえなくなるまでテレビのスピーカーの音量を下げる

※ヒント

- ・ 音声が小さい場合は本機のボリュームを上げてください。
-25dB程度まで音量を上げても音声が聞こえない場合は、「故障かな?と思ったら」(65ページ)をご参照ください。
- ・ リモコンコードを設定している場合は、テレビやDVDプレーヤーを本機のリモコンで操作することができます。
リモコンコードの設定については62ページをご参照ください。

サラウンド再生を楽しむ

内蔵デコーダーとインジケーター表示

本機では、内蔵したデコーダーにより、以下のようなさまざまなソースを楽しむことができます。

入力している音声信号は自動的に選択され、以下のようにフロントパネルディスプレイのインジケーターが点灯します。

BS/CS/地上波デジタル放送を入力している時

AAC

BS/CS/地上波デジタルの音声多重放送を入力している時

DUAL

CDを再生している時

PCM

DTSデジタル信号を入力している時またはDTS Neo:6を選択している時

dts

ドルビーデジタル信号を入力している時

DOL DIGITAL

ドルビープロロジックを選択している時

DOL PL

ドルビープロロジックIIを選択している時

DOL PL II

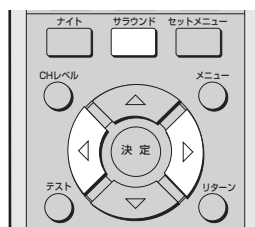
※ヒント

「音声信号の種類を選ぶ」(58ページ)で、入力音声信号を選択することができます。

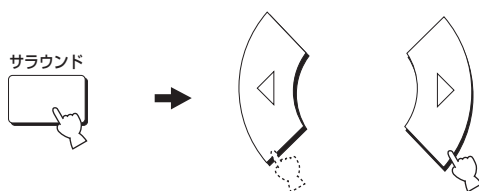
2チャンネルソースをマルチチャンネルで楽しむ

本機では、2チャンネルソース(アナログソースやCDなど)をデコードし、5.1チャンネルで再生することができます。

また、サラウンドモードを切り替えることによって、さまざまなサラウンド効果を楽しむことができます(ビームモードの設定がステレオモード以外有的时候に有効となります)。



リモコンのサラウンドキーを繰り返し押し押すか、サラウンドキーを押してから◀/▶キーを押す



選択できるサラウンドモードとおすすめのソース

サラウンドモード		おすすめのソース
ドルビープロロジック	—	すべてのソース
ドルビープロロジックII	Movie Music Game	映画 音楽 ゲーム
DTS Neo:6	Cinema Music	映画 音楽

その他の再生のしかた

サラウンドモードのパラメーターを変更する

サラウンドモード(41ページ)でドルビープロロジックII MusicまたはDTS Neo:6 Musicを選択している場合は、ソースにあわせてサウンドをアレンジすることができます。

1 △ / ▽ キーを押して、パラメーターを選択する

2 ◀ / ▶ キーを押して、設定値を変更する

選択できるパラメーターと変更できる設定値は以下のとおりです。

パノラマ

PANORAMA(PLII Music選択時)

フロント音場の広がり感を調節します。サラウンド音場につながるような広がり感を得ることができます。
選択項目：ON/OFF

ディメンション

DIMENSION(PLII Music選択時)

フロント音場とサラウンド音場レベルを好みのバランスにすることができます。
-にするとサラウンド側、+にするとフロント側が強くなります。
可変範囲：-3~**STD**~+3

センター ウィドゥス

CENTER WIDTH(PLII Music選択時)

センターからの音声を左右に振り分けることができます。
0にするとセンターのみ、7にするとフロントL/Rのみからセンター音声が出力されます。
可変範囲：0~**3**~7

センター イメージ

C. IMAGE(DTS Neo:6 Music選択時)

フロント音場の広がり感を調節します。値を小さくするとフロント音場の広がりが大きくなり、大きくすると狭く(センターへの定位が強く)なります。
可変範囲：0.0~**0.2**~0.5

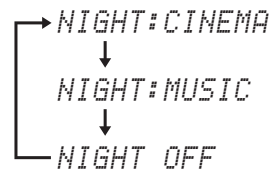
夜間に小音量でサラウンドを楽しむ(ナイトリスニングモード)

夜間に小音量で再生する場合でも、セリフなどは明瞭に再生します。

映画再生に適したCINEMAモードと、音楽再生に適したMUSICモードが用意されていますので、再生するソースにあわせてサラウンドモードを選択してください。

1 リモコンのナイトキーを押す

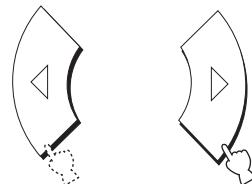
ナイトリスニングモードで再生している間は、フロントパネルディスプレイのNIGHTインジケーターが点灯します。



2 各モードが表示されている間に

◀ / ▶ キーを押す

エフェクトレベルを選ぶことができます。



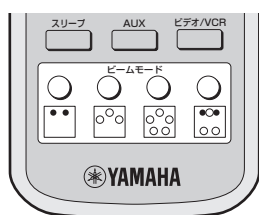
Effect.Lvl:MIN
↑↓
Effect.Lvl:MID
↑↓
Effect.Lvl:MAX

ビームモードの設定を変更する

ビームモードキーを使って、ビームモードを変更することができます。2チャンネルのステレオモード、3ビームモード、5ビームモードとST(ステレオ)+3ビームモードの2つの5.1チャンネルモードを、お好みで切り替えてお楽しみください。

セットメニュー「EASY SETUP」の、「SP POSITION」(34ページ)で、本機を壁と並行に設置している項目を選択している場合または「MANUAL SETUP」の「SP POSITION」(49ページ)を「WALL」に設定している場合はすべてのモードを選択することができます。

「CORNER」に設定している場合はステレオモードとST(ステレオ)+3ビームモードの2つを選択することができます。



ステレオモード

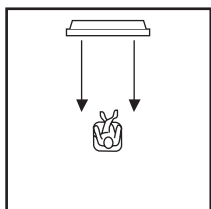
フロントレフトとフロントライトの2チャンネルから、ビーム化しない通常の音声を出力します。

マルチチャンネルソースの場合は、フロントL/Rチャンネル以外の音声をフロントL/Rチャンネルにミックスして、フロントL/Rチャンネルから出力します。

CDなどのハイファステレオソースの再生に最適です。

通常のテレビのスピーカーの代わりとしてもご利用いただけます。

どのビームモードにおいてもサラウンドモードの選択は行うことができますが、ステレオモード選択時にはサラウンドモードの機能は無効となっております。



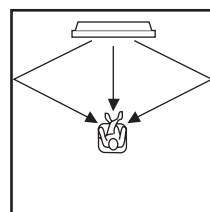
3ビームモード

フロントレフトとセンター、フロントライトの3チャンネルから音声を出力します。

マルチチャンネルソースの場合は、サラウンドレフトチャンネルの音声をフロントレフトチャンネルにミックスしてフロントレフトチャンネルのビームで出力し、サラウンドライトチャンネルの音声はフロントライトチャンネルにミックスしてフロントライトチャンネルのビームで出力します。

これにセンターチャンネルのビームを加え、3つのビームで音声を出力します。

フロントビームだけを出力することによって音のスイートスポットが広がるため、広い範囲で良好なサラウンド感を得ることができます。ご家族で一緒に映画を見るときなどに最適です。



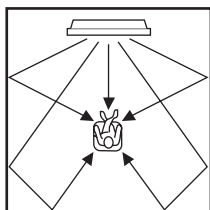
5ビームモード

フロントレフトとセンター、フロントライト、サラウンドレフト、サラウンドライトの5チャンネルから、ビーム化された音声を出力します。

ビーム経路とビームを反射する壁がしっかりと確保されている場合には、最大のサラウンド効果を得ることができます。

フロントL/Rチャンネルは、壁に向けて出力されます。

マルチチャンネルで記録されている映画DVDの鑑賞や、2チャンネルソースをマルチチャンネルで再生したいときなど、サラウンド効果を存分に楽しみたい場合に最適です。



ST(ステレオ)+3ビームモード

ステレオモードのフロントレフト、フロントライトチャンネルの音声に、ビーム化したセンターチャンネルとサラウンドレフト、サラウンドライトチャンネルの音声を加え、5チャンネルで音声を出力します。

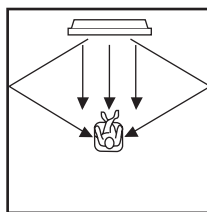
サラウンドレフトの音声信号はフロントレフトチャンネルのビームを使って出力され、サラウンドライトの音声信号はフロントライトチャンネルのビームを使って出力されます。

フロントL/Rチャンネルは、直接リスニングポジションに向けて出力されます。

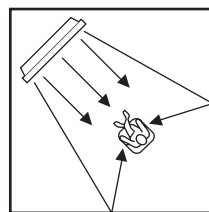
ライブDVDなどの鑑賞に最適です。中央付近からはボーカルの声や楽器の音が、横からは会場の反射音が聞こえ、まるでステージを前にしているような臨場感を楽しむことができます。



壁と並行に設置している場合



部屋のコーナーに設置している場合



高度な設定のしかた

イーजीセットアップでのサラウンドサウンドをお好みに合わせて調節したり、その他の各種設定を行います。

マニュアルセットメニュー一覧

マニュアルセットメニューでは、本機の性能をより引き出してお使いいただくことができます。メモリーやイーजीセットアップで十分にリアルサラウンドサウンドをお楽しみいただくことができますが、さらに高精度で高品質のサラウンドサウンドを追求するには、マニュアルセットアップにおすすみください。またマニュアルセットアップでは、音声以外の項目の設定を行うこともできます。

MANUAL SETUP

メニュー	サブメニュー	内容
SOUND MENU (サウンドメニュー)	SUBWOOFER SET	サブウーファースのいろいろな設定をします。
	SPEAKER LEVEL	各チャンネルの出力レベルを調節します。
	DYNAMIC RANGE	ダイナミックレンジの設定を行います。
	AUDIO SET	各種設定をします。
	TONE CONTROL	高音域と低音域の出力レベルを調節します。
BEAM MENU (ビームメニュー)	PARAMETER	リスニングルームでの本機やリスニングポジションを設定します。
	BEAM ADJ	さまざまなビームの設定をします。
	ROOM EQ	リスニングルームの音響特性を設定します。
	BEAM TONE	各チャンネルの高音域と低音域の出力レベルを調節します。
	IMAGE LOCATION	フロント左右チャンネルの定位を調節します。
	MEMORY	設定内容を保存したり呼び出したりします。
INPUT MENU (インプットメニュー)	INPUT ASSIGNMENT	音声入力端子の設定を変更します。
	INPUT MODE	電源をオンにしたときの入力の設定をします。
	INPUT RENAME	表示する入力機器の名称を変更します。
OPTION MENU (オプションメニュー)	DISPLAY SET	フロントディスプレイの表示の明るさやOSDの設定をします。
	UNIT SET	表示単位を切り替えます。

※ヒント

BEAM MENUでは、通常のサラウンドシステムでのスピーカー設定と同じような効果を引き出す設定ができます。

本機について

設置・接続する

準備・基本操作

進んだ使い方

付録

SOUND MENU (サウンドメニュー)

音質や音色の調節など、音声の出力に関する設定をします。

(セットメニュー→マニュアルセットアップ→サウンドメニュー)

1 SOUND MENU 1/2

→ A)SUBWOOFER SET
B)SPEAKER LEVEL
C)DYNAMIC RANGE
D)AUDIO SET
[▲]/[▼]:Up/Down
[SELECT]:Enter

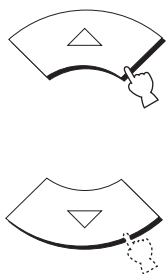
サブウーファー セット SUBWOOFER SET

サブウーファーのさまざまな設定をします。

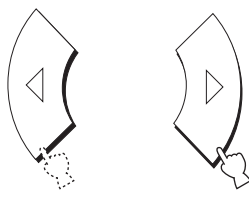
A)SUBWOOFER SET

→ BASS OUT.....BOTH
CROSS OVER...100Hz
LFE LEVEL.....0dB
DISTANCE.....3.0m
[▲]/[▼]:Up/Down
[<]/[>]:Select

→を移動させて



項目を選択、または
数値を設定する



バス アウト BASS OUT

低音成分を出力するスピーカーを設定します。

選択項目：SWFR、FRONT、BOTH
初期設定：BOTH

サブウーファー

SWFR

本機に接続したサブウーファーから低音成分を出力します。

フロント

FRONT

本機から低音成分を出力します。

ボース BOTH

本機と本機に接続したサブウーファーから低音成分を出力します。

クロス オーバー CROSS OVER

「BASS OUT」を「SWFR」に設定しているときに、サブウーファーに出力する低音成分の周波数の上限を設定します。設定した周波数以下の低音成分がサブウーファーに出力されます。

選択項目：80Hz、100Hz、120Hz
初期設定：100Hz

エルエフイー レベル LFE LEVEL

ドルビーデジタル、DTS、およびAAC信号に含まれているLFE(低域効果音)の音量を調節します。

可変範囲：-20dB~0dB
初期設定：0dB

ディスタンス DISTANCE

サブウーファーからリスニングポジションまでの距離を設定します。

可変範囲：0.3m~15.0m
初期設定：3.0m

スピーカー レベル SPEAKER LEVEL

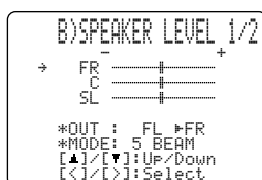
各チャンネルの音量レベルを調節して、バランスを整えます。

フロントライト、センター、サラウンドレフトチャンネルとサブウーファー設定時には、フロントレフトチャンネルと選択したチャンネルから、サラウンドライトチャンネル設定時にはサラウンドレフトチャンネルとサラウンドライトチャンネルから交互にテスト音が出力されます。

フロントレフトまたはサラウンドレフトチャンネルにあわせてその他のチャンネルの音量レベルを調節してください。

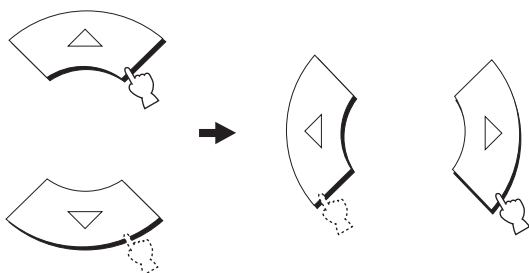
イーザーセットアップまたはマニュアルセットアップの「PARAMETER」を設定することにより、各項目の初期設定値は自動的に設定されています。

4つのビームモードそれぞれにチャンネルごとの音量の調節ができます。選択できないチャンネルは「None」と表示されます。



→を移動させて

数値を設定する



FR

フロントライトチャンネルの音量レベルを調節します。

C

センターチャンネルの音量レベルを調節します。

SL

サラウンドレフトチャンネルの音量レベルを調節します。

SR

サラウンドライトチャンネルの音量レベルを調節します。

SWFR

サブウーファーの音量レベルを調節します。

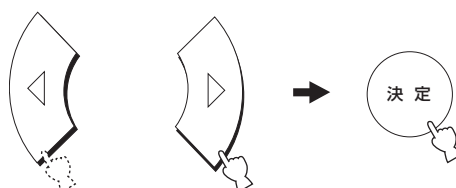
ダイナミック レンジ DYNAMIC RANGE

ドルビーデジタル、およびDTS再生時のダイナミックレンジを選びます。



→を移動させて

決定する



選択項目：MIN、STD、MAX
初期設定：MAX

MIN

小音量でも小さな音が明瞭に聴こえる、夜間に音声を楽しむのに適したダイナミックレンジです。

STD

一般的な家庭用として使用するダイナミックレンジです。

MAX

小さな音から大きな音まで、ソースの持つサウンドを最大に生かすダイナミックレンジです。

ダイナミックレンジとは？

どれだけ小さな音から、どれだけ大きな音までを雑音や歪みなく再生できるかを表わしたものです。

本機について

設置・接続する

準備・基本操作

進んだ使い方

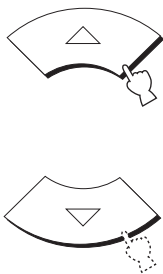
付録

オーディオ セット AUDIO SET

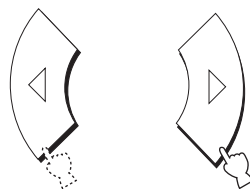
音声出力のタイミングが映像と一致するように補正したり、AACモノラル音声の出力を設定したりします。



→を移動させて



項目を選択、または
数値を設定する



ミュート レベル MUTE LEVEL

リモコンのMUTEキーを押して消音したいときに下げる音量を2段階から選択します。

選択項目：MUTE、-20dB
初期設定：MUTE

MUTE：完全に消音し、無音にします。
-20dB：いま聴いている音量よりも、20dB下げて再生します。

オーディオ デレイ AUDIO DELAY

デジタル処理された映像が、音声よりも遅れて出力されることがあります。この出力タイミングのずれを、音声を遅らせて出力することにより補正します。プラズマディスプレイをご使用の場合は30ms～50ms、ブラウン管式テレビをご使用の場合は0msの設定をおすすめします。ビームメニューの設定により、可変範囲は変化します。

可変範囲：0ms～160ms
初期設定：0ms

デュアル モノ DUAL MONO

BS/地上波デジタル放送などで使われているAAC信号のモノラル二重音声入力時に、どの音声出力するか設定します。

選択項目：MAIN、SUB、ALL
初期設定：MAIN

MAIN：主音声のみを出力します。
SUB：副音声のみを出力します。
ALL：主音声と副音声の両方を出力します。

トーン コントロール TONE CONTROL

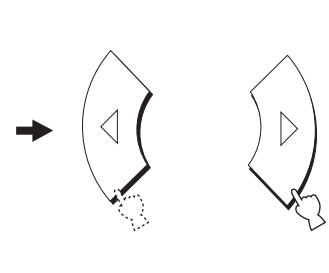
高音域と低音域の出力レベルを調節します。



→を移動させて



数値を設定する



トレブル TREBLE

高音域の音色を調節します。

可変範囲：-12.0dB～+12.0dB
初期設定：0dB

バス BASS

低音域の音色を調節します。

可変範囲：-12.0dB～+12.0dB
初期設定：0dB

BEAM MENU (ビームメニュー)

本機から出力されているビームに関するさまざまな設定を行います。

まずは「PARAMETER」を設定してください。その他のいくつかの項目で設定が自動的に適切な値へ変更されます。

(セットメニュー→マニュアルセットアップ→ビームメニュー)

2 BEAM MENU 1/2

→ A>PARAMETER
B>BEAM ADJ
C>ROOM EQ
D>BEAM TONE
[▲]/[▼]:Up/Down
[SELECT]:Enter

パラメーター

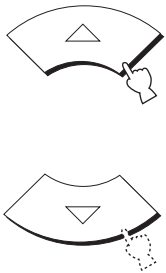
PARAMETER

リスニングルームでの本機の位置や本機からリスニングポジションまでの距離を設定します。

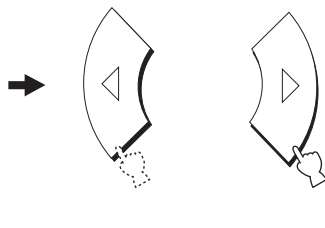
A>PARAMETER 1/3

→ SP POSITION
.....WALL
SP HEIGHT
.....1.0m
[▲]/[▼]:Up/Down
[<]/[>]:Select

→を移動させて



項目を選択、または
数値を設定する



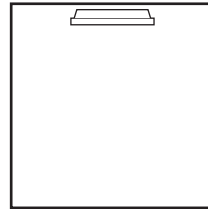
スピーカー ポジション

SP POSITION

スピーカーの設置状態を設定します。

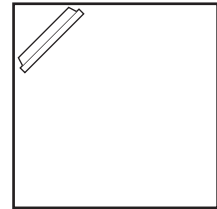
選択項目: WALL、CORNER
初期設定: WALL

WALL



壁と並行に設置

CORNER



部屋のコーナーに設置

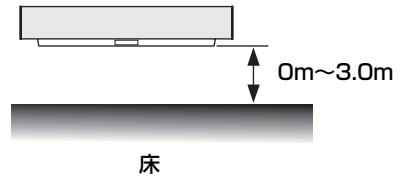
スピーカー ハイット

SP HEIGHT

床から本機までの高さを設定します。

可変範囲: 0m~3.0m
初期設定: 1.0m

YSP-1



床

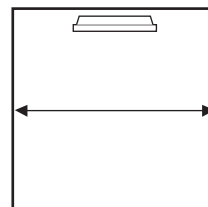
ルーム ウィドゥス レフト ウォール
ROOM WIDTH(LEFT WALL)

「SP POSITION」で「WALL」を設定した場合は、リスニングルームの幅を、「CORNER」に設定した場合は、リスニングポジションの左側前方の壁の長さを設定します。

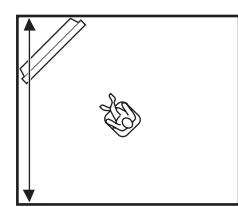
イージーセットアップまたはマニュアルセットアップ「PARAMETER」の「SP POSITION」を設定することにより、各項目の初期設定値は自動的に設定されています。

可変範囲: 2.0m~12.0m

WALLに設置している
場合



CORNERに設置している
場合



本機について

設置・接続する

準備・基本操作

進んだ使い方

付録

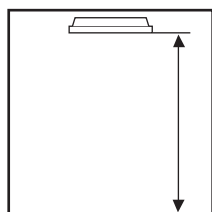
ルーム レングス ライト ウォール
ROOM LENGTH(RIGHT WALL)

「SP POSITION」で「WALL」を設定した場合は、スピーカーから後方の壁までの長さを、「CORNER」に設定した場合は、リスニングポジションの右側前方の壁の長さを設定します。

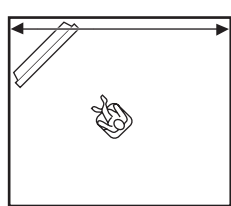
イーザーセットアップまたはマニュアルセットアップ「PARAMETER」の「SP POSITION」を設定することにより、各項目の初期設定値は自動的に設定されています。

可変範囲：2.0m～12.0m

WALLに設置している場合



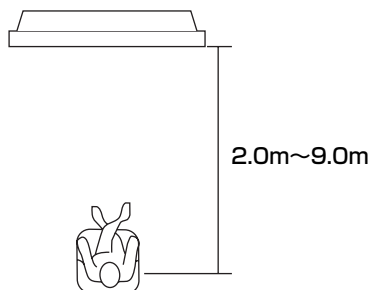
CORNERに設置している場合



ユーザー ポジション
USER POSITION

本機からリスニングポジションまでの距離を設定します。

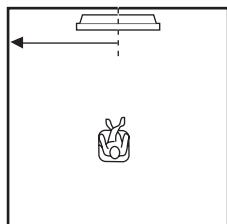
可変範囲：2.0m～9.0m



トゥーエル ウォール
TO L WALL

「SP POSITION」で「WALL」を設定した場合に、本機を中心から左側の壁までの距離を設定します。

可変範囲：0.6m～11.4m



ビーム アジャスト
BEAM ADJ

ビームの指向性に関する設定を行います。5ビームモードにしてから設定することをおすすめします。イーザーセットアップまたはマニュアルセットアップの「PARAMETER」を設定することにより、各項目の初期設定値は自動的に設定されています（「FOCAL LENGTH」の「CENTER」は除く）。ビームモード(43ページ)の設定により、設定できないチャンネルは「—」と表示されます。ST(ステレオ)+3ビームモード時のSL/SRチャンネルはFront L/Rチャンネルで設定してください。

B)BEAM ADJ

→ a)HORIZ. ANGLE
b)VERTICAL ANGLE
c)DISTANCE
d)FOCAL LENGTH
[▲]/[▼]: Up/Down
[SELECT]:Enter

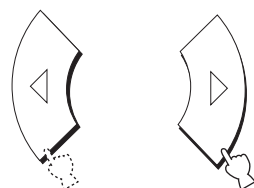
→を移動させて



項目を決定して



数値を設定する



水平方向 アングル
HORIZ. ANGLE

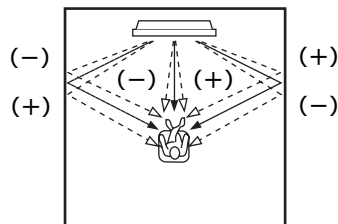
ビームの水平方向の角度をチャンネルごとに調節します。

－(マイナス)方向に調節すると音出力される方向は左方向へ移動し、＋(プラス)方向に調節すると右方向へ移動します。

これによってビームの経路が移動し、ビームの方向を最適化することができます。

テスト音が自動的に出力されます。

可変範囲：－90deg～＋90deg



バーティカル アングル

VERTICAL ANGLE

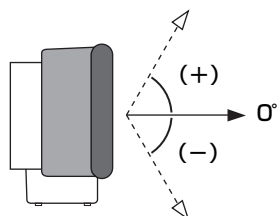
ビームの垂直方向の角度をチャンネルごとに調節します。

－(マイナス)方向に調節すると音は下方向へ移動し、＋(プラス)方向に調節すると音は上方向へ移動します。

これによってビームの経路が移動し、ビームの方向を最適化することができます。

テストトーンが自動的に出力されます。

可変範囲：－90deg～＋90deg
初期設定：0



ディスタンス

DISTANCE

それぞれのチャンネルのビームが、出力されてから壁にはね返ってリスニングポジションに到達するまでの距離を設定します。

下図では、矢印の長さを表します。

Front L/R

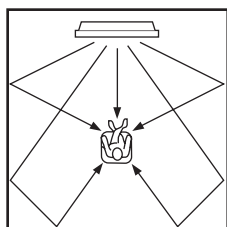
可変範囲：0.3m～24.0m

Center

可変範囲：0.3m～24.0m

Surround L/R

可変範囲：0.3m～24.0m



フォーカル レングス

FOCAL LENGTH

本機の前面と各チャンネルの音の焦点までの距離を設定します。

－(マイナス)方向に設定すると音が広がり、＋(プラス)方向にすると定位が得られます。センターチャンネルについては、初期設定(－0.5m)での使用をおすすめします。

Front L/R

可変範囲：－1.0m～＋13.0m

Center

可変範囲：－1.0m～＋13.0m

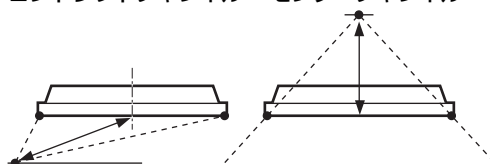
初期設定：－0.5m

Surround L/R

可変範囲：－1.0m～＋13.0m

例

フロントレフトチャンネル センターチャンネル



ルーム イコライザー

ROOM EQ

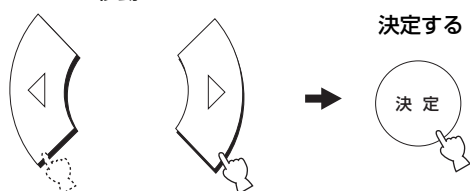
リスニングルームの音響特性を設定します。

```

CYROOM EQ
ROOM EQUALIZER
....STANDARD

[<]/[>]:Select
[SELECT]:Return
  
```

→を移動させて



スタンダード

STANDARD

一般的なリスニングルームでご使用の場合にお選びください。

ライブ

LIVE

リスニングルームの壁がコンクリートでできている場合など、音がよく反射するリスニングルームでご使用の場合にお選びください。

ウォール

マウント

WALL MOUNT(壁掛け)

壁掛けブラケット等を使用して本機を壁面に直接設置する際、本機背面と壁が接近していると、中低音がこもった感じに聞こえる場合があります。そのようなときにお選びください。

本機について

設置・接続する

準備・基本操作

進んだ使い方

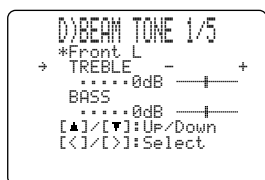
付録

ビーム トーン BEAM TONE

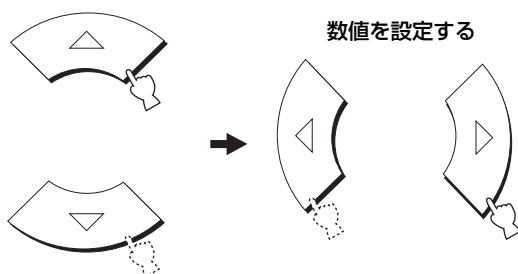
チャンネルごとに高音域と低音域のレベルを調節します。

※ヒント

特にFront L/R、Surround L/Rのいずれかの反射ポイントにカーテンなどの吸音性の高いものがある場合は、該当するチャンネルのTREBLEのレベルを上げると効果的です。



→を移動させて



フロント レフト トレブル Front L TREBLE

フロントレフトチャンネルの高音域のレベルを調節します。

可変範囲：-12.0dB～+12.0dB
初期設定：0dB

フロント レフト バス Front L BASS

フロントレフトチャンネルの低音域のレベルを調節します。

可変範囲：-12.0dB～+12.0dB
初期設定：0dB

フロント ライト トレブル Front R TREBLE

フロントライトチャンネルの高音域のレベルを調節します。

可変範囲：-12.0dB～+12.0dB
初期設定：0dB

フロント ライト バス Front R BASS

フロントライトチャンネルの低音域のレベルを調節します。

可変範囲：-12.0dB～+12.0dB
初期設定：0dB

センター トレブル Center TREBLE

センターチャンネルの高音域のレベルを調節します。

可変範囲：-12.0dB～+12.0dB
初期設定：0dB

センター バス Center BASS

センターチャンネルの低音域のレベルを調節します。

可変範囲：-12.0dB～+12.0dB
初期設定：0dB

サラウンド レフト トレブル Surround L TREBLE

サラウンドレフトチャンネルの高音域のレベルを調節します。

可変範囲：-12.0dB～+12.0dB
初期設定：0dB

サラウンド レフト バス Surround L BASS

サラウンドレフトチャンネルの低音域のレベルを調節します。

可変範囲：-12.0dB～+12.0dB
初期設定：0dB

サラウンド ライト トレブル Surround R TREBLE

サラウンドライトチャンネルの高音域のレベルを調節します。

可変範囲：-12.0dB～+12.0dB
初期設定：0dB

サラウンド ライト バス Surround R BASS

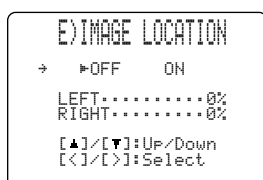
サラウンドライトチャンネルの低音域のレベルを調節します。

可変範囲：-12.0dB～+12.0dB
初期設定：0dB

イメージ ロケーション IMAGE LOCATION

フロントL/Rチャンネル用の音声信号を、センターチャンネルにも振り分けることによって、フロントL/Rチャンネルの音声が届いてくる方向を調節します。

リスニングポジションがリスニングルームの中心から極端にずれている場合など、左右で音の届いてくる方向が不自然な場合にご利用ください。
3ビームモードまたは5ビームモードに設定しているときのみ調節することができます。

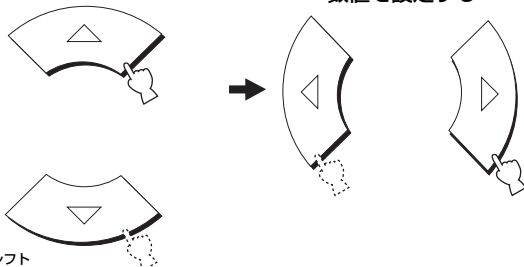


ON：設定を有効にします。

OFF：設定を無効にします。

→を移動させて

数値を設定する



LEFT

左側から聞こえてくる音の方向を調節します。設定値(%)が上がるほどセンターから音が聞こえるようになります。

可変範囲：0%～95%

初期設定：0%

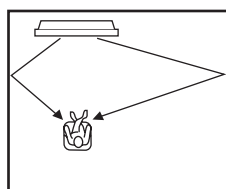
RIGHT

右側から聞こえてくる音の方向を調節します。設定値(%)が上がるほどセンターから音が聞こえるようになります。

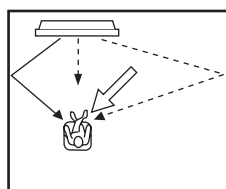
可変範囲：0%～95%

初期設定：0%

調節しないとき



フロントライトチャンネルを調節したときのイメージ



メモリー MEMORY

セットメニューで設定した内容を保存したり、呼び出したりします。

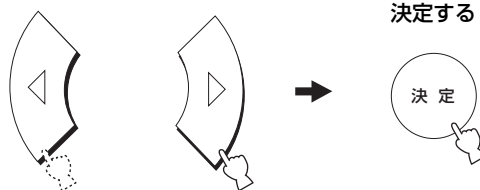
ビーム経路上にカーテンがある場合などは、カーテンの開閉によってビームの効果が変化します。

このような場合、USER1にカーテンが開いているときの設定を、USER2にカーテンが閉じているときの設定を保存しておくくと便利です。



→を移動させて

決定する



セーブ

SAVE

設定を保存します。初期設定であらかじめ記憶されたリスニング環境は消去されます。

選択項目：USER1、USER2、USER3

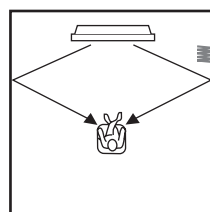
ロード

LOAD

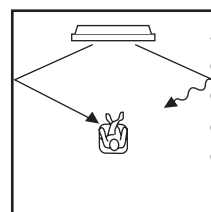
設定を呼び出します。初期設定では3つのリスニング環境があらかじめ記憶されています。詳しくは30ページをご参照ください。

選択項目：USER1、USER2、USER3

カーテンが開いている場合



カーテンが閉じている場合



本機について

設置・接続する

準備・基本操作

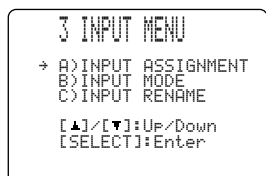
進んだ使い方

付録

INPUT MENU (インプットメニュー)

音声信号の入力に関する設定を行います。

(セットメニュー→マニュアルセットアップ→インプットメニュー)



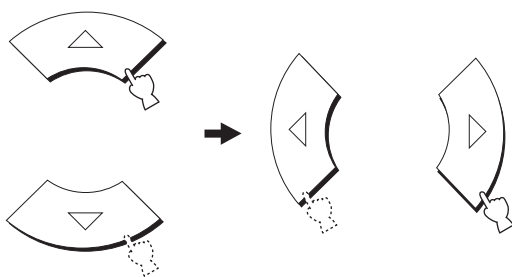
インプット アサインメント INPUT ASSIGNMENT

本機は、端子部分に表示されている機器名と異なった機器でも、接続してご使用いただくことができます。

入力端子には、接続された機器の名前が付けられています。接続された機器に応じて名前を変更することにより、リモコンの入力選択キーの名前と同じ機器名の入力切替ができます。また、フロントパネルディスプレイやOSDに表示される機器名が実際に接続されている機器名と一致するように設定をします。

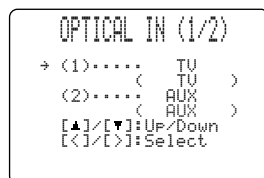
→を移動させて

項目を選択する



オプティカル イン OPTICAL IN(1)

初期設定では本機のTV OPTICAL IN端子はTVに設定されていますので、接続された機器名に関係なく、入力選択キーのTVキーを押すと、フロントパネルディスプレイやOSDに「TV」と表示され、TV OPTICAL IN端子に接続した機器の入力が選択されますが、TV OPTICAL IN端子にビデオを接続し、設定をVCRに変更すると、入力選択キーのVCRキーでビデオの入力を選択できるようになり、フロントパネルディスプレイやOSDに「VCR」と表示されるようになります。



選択項目：TV、VCR
初期設定：TV

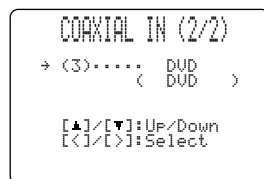
オプティカル イン OPTICAL IN(2)

初期設定では本機のAUX OPTICAL IN端子はAUXに割り当てられていますので、接続された機器名に関係なく、入力選択キーのAUXキーを押すと、フロントパネルディスプレイやOSDに「AUX」と表示され、AUX OPTICAL IN端子に接続した機器の入力が選択されますが、AUX OPTICAL IN端子にDVDを接続し、設定をDVDに変更すると、入力選択キーのDVDキーでDVDの入力を選択できるようになり、フロントパネルディスプレイに「DVD」と表示されるようになります。

選択項目：AUX、DVD
初期設定：AUX

コアキシャル イン COAXIAL IN(3)

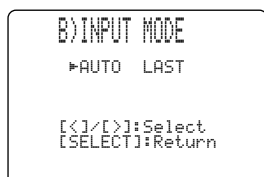
初期設定ではDVDに割り当てられていますので、接続された機器名に関係なく、リモコンの入力選択キーのDVDキーを押すと、フロントパネルディスプレイやOSDに「DVD」と表示され、COAXIAL IN端子に接続した機器の入力が選択されますが、COAXIAL IN端子にその他の機器を接続し、設定をAUXに変更すると、入力選択キーのAUXキーでその他の機器の入力を選択できるようになり、フロントパネルディスプレイやOSDに「AUX」と表示されるようになります。



選択項目：DVD、AUX
初期設定：DVD

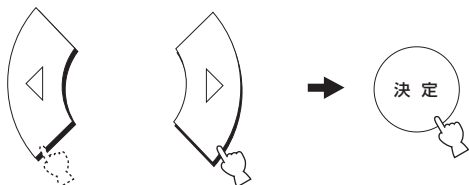
インプット モード INPUT MODE

電源を入れたときに、本機が自動的に適切な音声入力信号を選択するか、前回選択していた音声入力信号を今回もそのまま適用するかの設定をします。音声信号の種類については、「音声信号の種類を選ぶ」(58ページ)をご覧ください。



→を移動させて

決定する



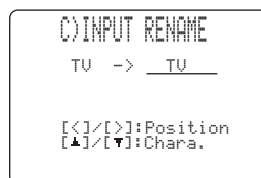
選択項目：AUTO、LAST
初期設定：AUTO

AUTO：入力された音声信号を識別して、自動的に適切な入力選択をします。

LAST：前回電源を切ったときに選択していた音声入力信号を再生します。設定とは異なった音声信号が入力された場合は、音声は出力されません。

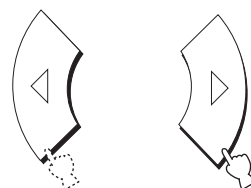
インプット リネーム INPUT RENAME

フロントパネルディスプレイとOSDで表示される入力名を、最大で8文字までのお好みの名称に変更することができます。入力選択キーで変更したい入力を選び、テストキーを一回押してから下記の操作をします。



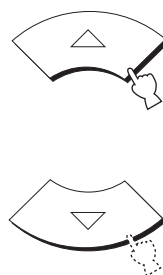
1 ◀/▶キーを押して、文字を変更したい位置を合わせる

_(下線部)が点滅します。



2 ▲/▼キーを繰り返し押して、入力したい文字を選ぶ

入力できる文字は以下の通りです。
A～Z、0～9、a～z、記号、スペース



3 手順1、2を繰り返す

4 入力が終わったら、決定キーを押す

設定が決定され、前の画面に戻ります。



本機について

設置・接続する

準備・基本操作

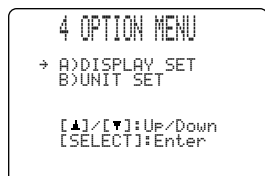
進んだ使い方

付録

OPTION MENU (オプションメニュー)

表示や映像の設定、単位の選択を行います。

(セットメニュー→マニュアルセットアップ→オプションメニュー)



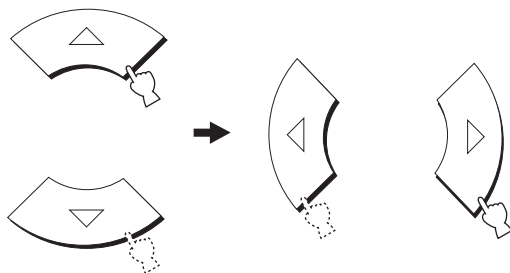
ディスプレイ セット DISPLAY SET

フロントパネルディスプレイ表示の明るさを設定します。



→を移動させて

項目を選択する



スタンダード ディマー

STANDARD DIMMER

本体のキーまたはリモコンキーでなんらかの操作をすると、フロントパネルディスプレイの表示が一定時間明るくなります。そのときの明るさを調節します。

選択項目: -2, -1, OFF
初期設定: OFF

オート ディマー AUTO DIMMER

一定時間なにも操作しないと、フロントパネルディスプレイは暗く表示されます。そのときの明るさを調節します。「STANDARD DIMMER」の設定値を基準にさらに3段階暗くすることができます。

選択項目: DISPLAY OFF、-3~-1、OFF
初期設定: OFF

オーエスディー シフト

OSD SHIFT

OSDを表示する位置を調節します。-(マイナス)方向にすると表示位置が上に移動し、+(プラス)方向にすると下に移動します。

可変範囲: -5~+5
初期設定: 0

オーエスディー バック カラー

OSD BACK COLOR

OSDの背景色を選択します。

選択項目: BLUE、GRAY
初期設定: BLUE

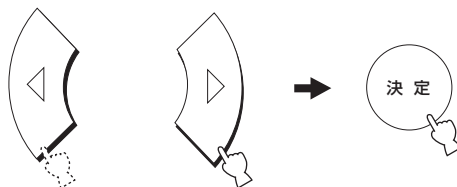
ユニット セット UNIT SET

距離を設定する際の単位の切り替えをします。「METERS」はメートル法で、「FEET」はフィート法で表示します。



→を移動させて

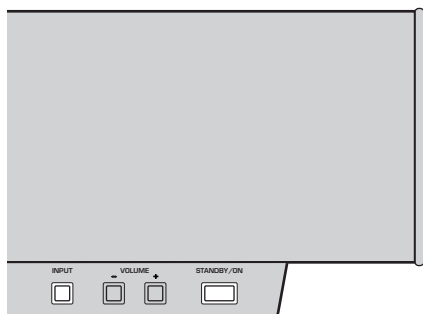
決定する



選択項目: METERS、FEET
初期設定: METERS

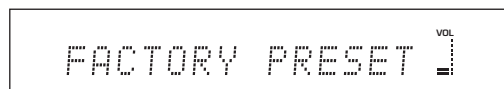
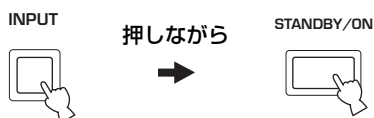
設定した内容を初期化する

セットメニューで変更した各種設定をすべて工場出荷状態 (ROOM TYPE : SQUARE、SP POSITION : CENTER、ROOM SIZE : MID) に戻します。



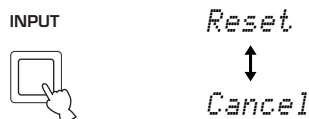
1 本体のINPUTキーを押しながら、STANDBY/ONキーを押して電源を入れる

フロントパネルディスプレイに「FACTORY PRESET」と表示されます。



3 再度INPUTキーを押す

「Reset」と表示されます。
工場出荷状態に戻たくない場合は、ここで再度INPUTキーを押して、「Cancel」を選択します。

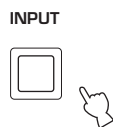


4 STANDBY/ONキーを押して、電源をスタンバイにする

再度STANDBY/ONキーを押して電源を入れたら、工場出荷状態に戻ります。



2 INPUTキーをはなす



本機について

設置・接続する

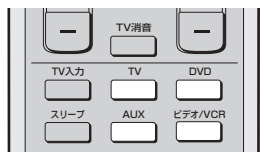
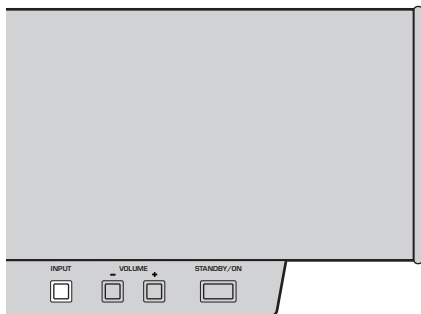
準備・基本操作

進んだ使い方

付録

音声信号の種類を選ぶ

テレビやDVDから本機に入力される音声信号の選択をします。
「AUTO」(初期設定)のままでほとんどの音声信号を再生することができますが、必要に応じてデジタル、アナログ信号の優先順位を選んだり、DTSまたはAAC信号に入力設定を固定したりすることができます。



AUTO

入力された音声信号を識別して、自動的に適切な入力選択とデコードをします。
デジタルとアナログの両方で接続したTVから、デジタル信号とアナログ信号の両方の信号が入力された場合には、デジタル信号を優先して選択します。
通常はこのモードをご使用ください。

DTS

DTS信号のみを再生します。
DTS信号を入力している場合に、AUTOに設定しているときよりも安定した再生をすることができます。
DTS-CDまたはDTS-LDを再生するときにおすすめします。

AAC

AAC信号のみを再生します。
AAC信号を入力している場合に、AUTOに設定しているときよりも安定した再生をすることができます。
BS/地上波デジタル放送やD-VHSデッキなどからAAC信号入力するときにおすすめします。

ANALOG

デジタル信号とアナログ信号が同時に入力されている場合に、アナログ信号を再生します。

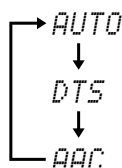
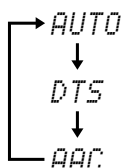
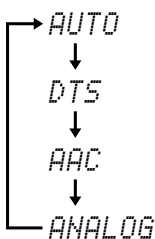
本体のINPUTキーまたはリモコンの入力選択キーを長押しする

本体のINPUTキーまたはリモコンの入力選択キーを押すと、現在設定されている入力設定が確認できます。
長押しすると、入力設定を変更することができます。
VCRはANALOGの設定となっています(工場出荷時)。

INPUT



または



※ヒント

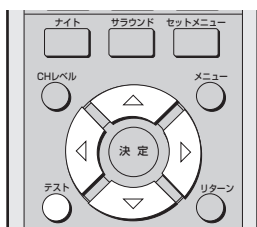
セットメニューの「INPUT MODE」の設定で、本機の電源をオンにした際に使用する入力設定を「AUTO」にするか、前回使用していた入力設定にするかを指定することができます(55ページ)。

音のバランスを調節する

各チャンネルの音量のバランスを調節します。各チャンネルの音量バランスを整えることによって、自然なサラウンドサウンドになります。
4つのビームモードそれぞれにチャンネルごとの音量の調節ができます。

テストトーンを使って調節する

各チャンネルからテストトーンを出力することによって、チャンネルごとの音の大きさの違いを聴きくらべ、バランスを調節することができます。

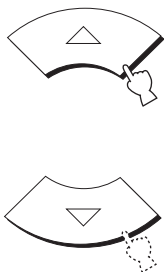


1 テストキーを押す

フロントパネルディスプレイに「TEST LEFT」と表示され、フロントレフトチャンネルからテストトーンが出力されます。

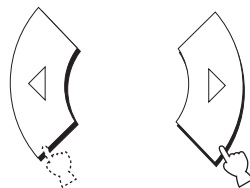


2 △ / ▽ キーを押して調節したいチャンネルを選択する



3 ◀ / ▶ キーを押して音量レベルを調節する

調節できる範囲は、-10dBから+10dBです。



設定中に音量を上げた場合は、次のステップにすすむ前に必ず音量を確認し、上がり過ぎている場合は音量を下げてください。

4 テストキーを押して、設定を終了する



※ヒント

サブウーファーを接続して、セットメニューの「BASS OUT」を「BOTH」または「SWFR」に設定すると、「SUBWOOFER」の項目も設定できます(46ページ)。

本機について

設置・接続する

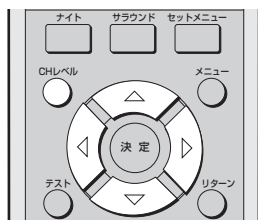
準備・基本操作

進んだ使い方

付録

再生しながら調節する

DVDなどのソースを再生しながら、各チャンネルの音量バランスを調節することができます。



4 CHレベルキーを押して、設定を終了する



1 CHレベルキーを押す

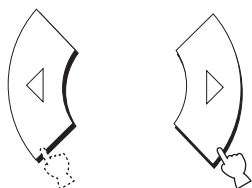


2 △ / ▽ キーを押して、調節したいチャンネルを選択する



3 ◀ / ▶ キーを押して、音量レベルを調節する

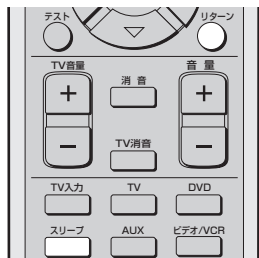
調節できる範囲は、 -10dB から $+10\text{dB}$ です。



一定時間後に自動的にスタンバイ状態にする(スリープタイマー)

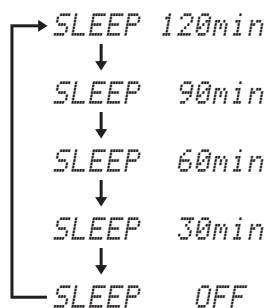
一定時間が経過すると、自動的に電源がスタンバイ状態になるように設定します。本機で音声を聴きながらおやすみになりたい場合などに便利です。

スリープタイマーを設定する



1 リモコンのスリープキーを繰り返し押し

スタンバイ状態になるまでの時間が以下のように切り替わります。選択している間は、SLEEPインジケーターが点滅します。



2 リターンキーを押すか、しばらくの間操作をしない

SLEEPインジケーターが点灯に変わり、スリープタイマーが設定されます。



スリープタイマーを解除する

スリープタイマーを設定したあとに設定を解除したい場合です。

1 リモコンのスリープキーを繰り返し押し、**「OFF」**を選択する



SLEEP OFF

2 リターンキーを押すか、しばらくの間操作をしない

SLEEPインジケーターが消灯し、設定が解除されます。



SLEEP
消灯

※ヒント

リモコンの電源キーまたは本体のSTANDBY/ONキーを押すか、電源コードを抜くと、スリープタイマーは解除されます。

本機のリモコンで外部機器を操作する

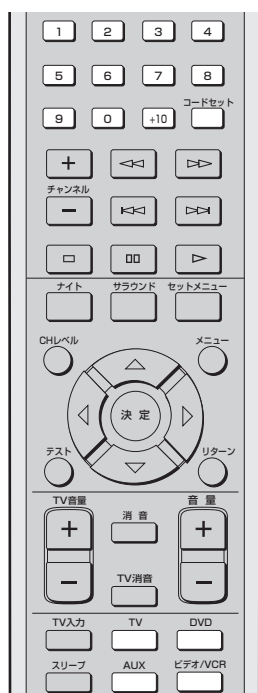
外部機器のリモコンコード(71ページ)を登録すると、本機のリモコンを使用して本機に接続したテレビやDVD、ビデオデッキなどの外部機器を操作することができます。

ご注意

外部機器の機種によっては、本機のリモコンで一部の機能を操作できない場合があります。また、全く操作できない場合もあります。このような場合は各機器に付属しているリモコンをご使用ください。

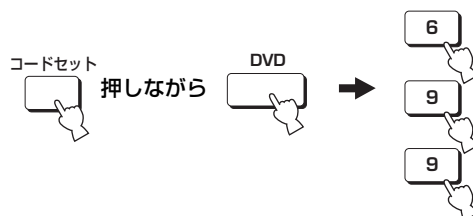
リモコンコードを登録する

入力選択キーのTVキーにはテレビの、DVDキーにはDVDの、ビデオ/VCRキーにはビデオデッキの、AUXにはその他の機器のリモコンコードを登録することができます。



1 コードセットキーを押しながら、リモコンコードを設定したい外部機器の入力選択キーを押し、コードセットキーを押したまま、数字キーで外部機器のリモコンコード(71ページ)を入力する

設定例(ヤマハ製DVD)



2 「設定した機器を操作する」(63ページ)を参照し、登録した外部機器のいずれかの操作を実行する

外部機器が正しく機能すれば登録は完了です。

正しく機能しない場合はリモコンコードが合致していない可能性があります。本機に接続している外部機器のリモコンコード(71ページ)を確認後、手順1を再度実行してください。

ご注意

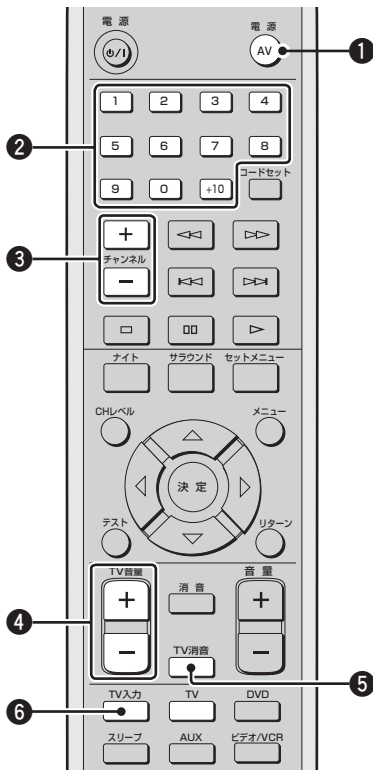
リモコンの電池が切れると、約2分後にリモコンのメモリー内容が消去されます。

この場合、必要に応じてリモコンコードを再登録してください。

電池が切れてから2分に満たない場合でも、電池の交換中にリモコンのキーを押すと、設定が消えてしまうことがありますので、ご注意ください。

設定した機器を操作する

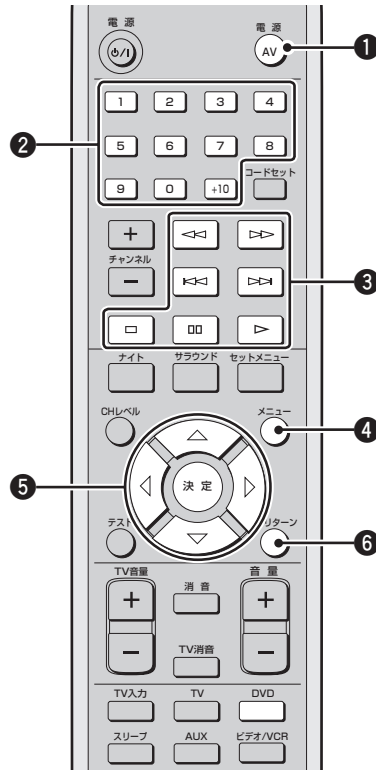
テレビを操作する



TVキーを押して入力をテレビに切り替えます。

- ①電源キー：テレビの電源をオンにします。
- ②数字キー：チャンネルを直接指定します。
- ③チャンネル+/-キー：テレビのチャンネルを切り替えます。
- ④TV音量+/-キー：テレビの音量を調節します。
- ⑤TV消音キー：テレビの音量を一時的に消音します。
- ⑥TV入力キー：テレビの入力を切り替えます。

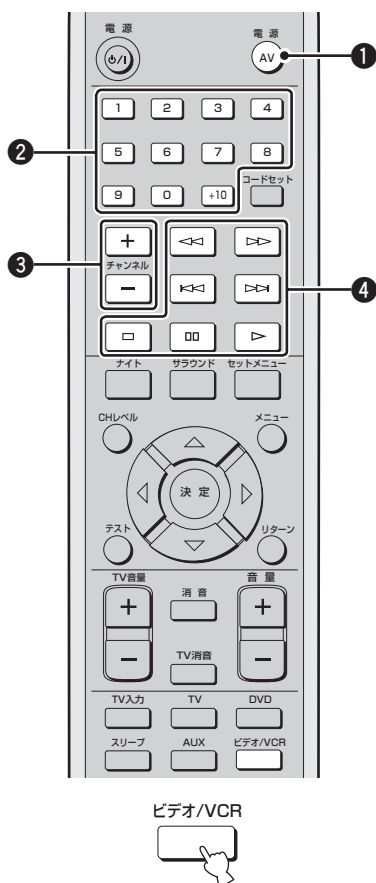
DVDを操作する



DVDキーを押して入力をDVDに切り替えます。

- ①AV電源キー：DVDの電源をオンにします。
- ②数字キー：数字を入力します。
- ③DVD、ビデオデッキ操作キー：再生、停止などの操作をします。
- ④メニューキー：DVDメニューを表示します。
- ⑤カーソルキー：DVDメニューを選択します。
- ⑥リターンキー：DVDメニューで前の画面に戻ったりDVDメニューから抜ける時に押します。

ビデオデッキを操作する



ビデオ/VCRキーを押して入力をビデオデッキに切り替えます。

- ①AV電源キー：ビデオデッキの電源をオンにします。
- ②数字キー：数字を入力します。
- ③チャンネル＋／－キー：ビデオデッキのチャンネルを切り替えます。
- ④DVD、ビデオデッキ操作キー：再生、停止などの操作をします。

YSP-1の操作モードに戻る

リモコンをYSP-1を操作するモードに戻すときには、以下のキーを押してください。各キーについては15ページと28ページをご参照ください。

ナイトキー
サラウンドキー
セットメニューキー
CHレベルキー
テストキー

故障かな？と思ったら

ご使用中に本機が正常に作動しなくなった場合は下記の点をご確認ください。対処しても正常に動作しない場合や、下記以外で異常が認められた場合は、本機をスタンバイ状態にし、電源プラグをコンセントから抜いてからお買上げ店または最寄りのヤマハ電気音響製品サービス拠点にお問い合わせください。

全般

症状	原因	対策	参照ページ
電源を入れてもすぐに切れてしまう	電源コードがしっかり接続されていない。	電源コードをACコンセントおよび本体AC IN端子にしっかりと差し込んでください。	—
	内部マイコンが外部電気ショック(落雷または過度の静電気)、または電源電圧の低下によりフリーズしている。	ACコンセントから電源プラグを抜き、約30秒後にもう一度差し込んでください。	—
STANDBY/ONキーを押しても電源が入らない	電源コードがしっかり接続されていない。	電源コードをACコンセントおよび本体AC IN端子にしっかりと差し込んでください。	25
	内部マイコンが外部電気ショック(落雷または過度の静電気)、または電源電圧の低下によりフリーズしている。	ACコンセントから電源プラグを抜き、約30秒後にもう一度差し込んでください。	—
使用中に突然電源が切れる	機器内部の温度が上昇したため、保護回路が働き電源が切れた。	温度が下がるのを待って(約1時間程度)、電源を入れなおしてください。	—
	スリープタイマーが作動した。	電源を入れてソースを再生しなおしてください。	—
音が出ない	再生機器がしっかり接続されていない。	接続を確認してください。	19
	再生したいソースが正しく選ばれていない。	INPUTキーや入力選択キーで、再生したいソースを正しく選んでください。	40
	音量が小さい。	音量を大きくしてください。	39
	消音されている。	リモコンのミュートキーまたは音量+/-キーを押して消音を解除し、音量を調節してください。	39
	CD-ROMなど本機で再生できない信号が入力されている。	本機で再生可能な信号のソースを再生してください。	—
音声が突然出なくなる	消音された。	リモコンのミュートキーまたは音量+/-キーを押して消音を解除し、音量を調節してください。	39
エフェクトチャンネル(センター、サラウンドL/R)から音が出ない	ステレオモードで再生している。	ビームモードキーでマルチチャンネルを選択して再生してください。	43
有線放送などでエフェクトチャンネルの音がノイズになる	あらかじめソースにサラウンド効果がかかっている。	本機でサラウンド効果をかけないでください。	—

本機について

設置・接続する

準備・基本操作

進んだ使い方

付録

症状	原因	対策	参照ページ
センターチャンネルから音が出ない	センターチャンネルの音量が絞られている。	センターチャンネルの音量を調節してください。	59
サラウンドL/Rチャンネルから音が出ない	サラウンドL/Rチャンネルの音量が小さい。	サラウンドL/Rチャンネルの音量を調節してください。	59
サブウーファーから音が出ない	セットメニュー「SUBWOOFER SET」の「BASS OUT」を「FRONT」に設定したまま、ドルビーデジタル、DTSおよびAAC信号を再生している。	「SWFR」または「BOTH」に設定してください。	46
	再生しているソースにLFEや低音信号が含まれていない。		—
十分なサラウンド効果が得られない	リスニングルームが特殊な形状をしている。	四角の部屋に設置してください。	—
	ビーム系路上に壁がない。	ビーム経路上に反射板を設置してください。	—
ドルビーデジタルまたはDTSソフトの再生ができない(本機のディスプレイのドルビーデジタルまたはDTSインジケータが点灯しない)	接続したプレーヤーなどの設定が「デジタル出力」かつ「ドルビーデジタルまたはDTS」に設定されていない。	お使いのプレーヤーの取扱説明書を参照し、正しく設定してください。	—
	入力選択をANALOGに設定している。	「AUTO」に設定してください。	58
低音の再生不良	セットメニュー「SUBWOOFER SET」の「CROSS OVER」が正しく設定されていない。	「CROSS OVER」を正しく設定してください。	46
OSD画面が表示されない	OSD用ビデオケーブルがしっかり接続されていない。	接続を確認してください。	20
	テレビの入力切替が正しく設定されていない。	テレビの入力を切り替えてください。	28
DVDなどの映像が出ない	ビデオケーブルがしっかり接続されていない。	接続を確認してください。	19
	テレビの入力切替が正しく設定されていない。	テレビの入力を切り替えてください。	28
本機が正常に作動しない	内部マイコンが外部電気ショック(落雷または過度の静電気)、または電源電圧の低下によりフリーズしている。	ACコンセントから電源プラグを抜き、約30秒後にもう一度差し込んでください。	—
デジタル機器や高周波機器からの雑音を受けている	本機とデジタル機器や高周波機器の設置場所が近すぎる。	本機をそれらの機器から離して設置してください。	—

リモコン

症状	原因	対策	参照ページ
リモコンで操作できない	リモコン操作範囲から外れている。	本体のリモコン受光部から6m以内、角度30° 以内の範囲で操作してください。	27
	受光部に日光や照明（インバーター蛍光灯やストロボライトなど）が当たっている。	照明、または本体の向きを変えてください。	—
	乾電池が消耗している。	乾電池をすべて交換してください。	26
外部機器がリモコンで操作できない	操作する機器が選ばれていない。	入力選択キーまたはINPUTキーを押して、操作したい機器を選ぶ。	40
	リモコンコードが正しく設定されていない。	リモコンコードを設定しなおすか、同じメーカーのコードの中から別のコードを設定してください。	62
	リモコンコードを正しく設定しても、メーカーまたは機器によっては操作できない場合があります。	各機器に付属しているリモコンをご使用ください。	—
セットメニューの操作中にカーソルキーの操作ができない	入力切替キーを押してしまった。	テストキーを1回押してください。	29

本機について

設置・接続する

準備・基本操作

進んだ使い方

付録

ドルビーサラウンド

ドルビーサラウンドは、ダイナミックで臨場感豊かな音響効果のために、フロントL/Rチャンネル(ステレオ音声)、会話などを再生するセンターチャンネル(モノラル音声)、効果音のサラウンドチャンネル(モノラル音声)の、アナログ4チャンネル方式を採用しています。サラウンドチャンネルの再生域は狭くなっています。

現在、ほとんどのソフトに普及している方式です。

本機内蔵のドルビープロロジックデコーダーは、各チャンネルの音量を自動的に調整して安定させ、音の移動感や方向性を強調して、より正確なデジタル処理を行います。

ドルビーデジタル

ドルビーデジタルは、完全に独立したマルチチャンネル音声を再生できるデジタルサラウンドシステムです。全帯域の音声成分を持つフロント3チャンネル(フロントL/R、センター)と、サラウンド2チャンネル(サラウンドL/R)、低音域専用のLFEチャンネルの合計5.1チャンネルで構成されます。

サラウンド2チャンネルがステレオで収録されているため、ドルビーサラウンドと比較して、音の移動感や周囲の環境音がより明確になります。

全帯域の5チャンネルの幅広いダイナミックレンジと正確な音の定位によって、これまでにない迫力と現実感を再現できます。

ドルビープロロジックII

2チャンネルで記録された音声を信号処理し、優れた分離感を保ったまま5.1チャンネル音声に変換します。

映画用のMovieモードと、音楽などのステレオソース用のMusicモード、ゲーム用のGameモードが用意されています。従来の2チャンネル音声(モノラル音声を除く)だけで記録された古い映画も、5.1チャンネルの迫力ある音声で楽しめます。

AAC(アドバンスト・オーディオ・コーディング)

MPEG-2オーディオ規格の1つで、BS/地上波デジタル放送で採用されています。モノラル音声から最大で7チャンネル音声までを効率良く圧縮して記録、伝送できます。

本機はAACデコーダーを搭載しているので、BS/地上波デジタルチューナーで受信した番組の5.1チャンネル音声をデコード(復調)して再生できます。

DTS(デジタル・シアター・システムズ)デジタルサラウンド

DTSデジタルサラウンドは、アナログの映画音声に取って代わる5.1チャンネル方式のデジタルサウンドトラックとして開発された最新技術で、世界中の映画館に急速に普及しています。

この技術を家庭用に調整したものが、本機で採用しているDTSシステムです。

極めて劣化が少なく、クリアな音質の6チャンネル(フロントL/R、センター、サラウンドL/Rチャンネル、サブウーファー用LFE0.1チャンネルを加えた5.1チャンネル)で構成されています。

DTS Neo : 6

2チャンネル信号のソースを、サラウンドバックを含めた6チャンネルで再生できます。再生するソースに合わせて、音楽用のMusicモードと、映画用のCinemaモードが用意されています。

すべてのチャンネルを全帯域で再生できるだけでなく、ディスクリート方式で記録されたソースのようなチャンネルの分離感を体感できます。

PCM(リニアPCM)

MP3形式やATRAC形式のようにアナログ音声信号を圧縮せずに、そのまま符号化して録音・伝送する方式です。

「PCM」は、パルス・コード・モジュレーションの略で、デジタル信号をパルスの符号にして変調記録するという意味です。

音楽CDや、DVDオーディオの録音方法などで採用されています。

PCM方式では、非常に短く区切った単位時間あたりの信号の大きさを数値に置き換える(サンプリング)手法を用いています。

LFE(ロー・フリケンシー・エフェクト)0.1チャンネル

音声成分の帯域が20～120Hzの、低音域専用チャンネルです。

ドルビーデジタルとDTS、AACで、全帯域用の5チャンネルに加えて、効果的な場面で低音を増強するために使用されます。音声の帯域が低域のみに制限されているので、0.1と表現されます。

本機について

設置・接続する

準備・基本操作

進んだ使い方

付録

主な仕様

アンプ部

実用最大出力(EIAJ)
..... 2W(1kHz, 10%THD, 10Ω)×40個
+20W(100Hz, 10%THD, 4Ω)×2個

スピーカー部

小口径スピーカー
..... 4cmコーン防磁型×40個
ウーファー..... 11cmコーン防磁型×2個

入力端子

AUDIO VCR, TV(Analog)(1V/32kΩ)
..... 2組(アナログ音声)
AUDIO AUX, TV(Optical)
..... 2個(デジタル音声)
AUDIO DVD(Coaxial)
..... 1個(デジタル音声)

出力端子

SW PRE OUT(1V/120Hz以下)
..... 1個(サブウーファー)
VIDEO OUT OSD(1Vp-p/75Ω)
..... 1個(オンスクリーンディスプレイ)

システム接続端子

SYSTEM CONNECTOR
..... 1個(システムコントロール)
RS-232C 1個(システム設定用)

総合

電源電圧 AC100V、50/60Hz
消費電力 55W
待機時消費電力 0.5W以下
寸法(幅×高さ×奥行き)
..... 1030×194×118mm
(1030×192×113mm 突起部含まず)
質量 13.0kg

* 仕様、および外観は、改良のため予告なく変更することがあります。

本機は「JIS C 61000-3-2」適合品です。
JIS C 61000-3-2適合品とは、日本工業規格「電磁両立性第3-2部：限度値—高調波電流発生限度値(1相当たりの入力電流が20A以下の機器)」に基づき、商用電力系統の高調波環境目標レベルに適合して設計・製造した製品です。

リモコンコード一覧

下表のメーカー製品であっても形式、年式によって使用できないものがあります。他社のリモコンコードを設定した場合、機種によっては操作できないもの、または限られた機能しか操作できないものがあります。この場合は、お使いの機器専用のリモコンをご利用ください。複数のリモコンコードが記載されている場合は、お使いの機器に一致するものが見つかるまで順番にお試しください。

メーカー名	リモコンコード						
TV							
アイワ	294	276	283	284			
RCA	293	297	234	256	257	258	
	221						
NEC	297	252	282				
LG/GOLDSTAR	297	298	239	237			
SAMSUNG	297	239	248	262	275		
サンヨー	295	233	279	272	273	274	
	212						
シャープ	292	239	232	213			
ソニー	263	214					
DAEWOO	297	298	224	227	228		
東芝	292	226	267	215			
パナソニック	234	235	236	253	288	211	
パイオニア	226	235	254	255	268		
ビクター	296	246	247	286			
日立	297	239	242	243	285		
PHILIPS	225						
富士通	289						
フナイ	277	278					
三菱	299	297	259	287			
ヤマハ	299	292	242	285	287		

DVDプレーヤー

アイワ	648	649
RCA	639	
オンキヨー	632	633 634
ケンウッド	628	
SAMSUNG	642	
シャープ	643	
ソニー	644	676 677
DAEWOO	655	
デノン	623	624
東芝	634	665 666 667
パイオニア	636	637 638 673 674 675
パナソニック	623	635 668 672
ビクター	627	
日立	626	
PHILIPS	699	647 659
フナイ	625	
MARANTZ	699	659
三菱	629	
ヤマハ	699	622 623

メーカー名	リモコンコード						
ビデオデッキ							
アイワ	396	397	398	329			
NEC	392	394	344	383			
LG/GOLDSTAR	396	388					
Orion	327						
ケンウッド	392	394	396				
SAMSUNG	354	358	363	364	365	366	
サンスイ	394						
サンヨー	393	336	367				
シチズン	396						
シャープ	395	362	382				
ソニー	368	379	372	373	374	375	
DAEWOO	328	334	335				
東芝	335	369	389				
TEAC	392	394	397				
パイオニア	325						
パナソニック	325	328	339	355	378	384	
	385	386					
ビクター	392	394	344	345	346	347	
日立	325	333	349	342	343		
フナイ	397						
MARANTZ	392	394					
三菱	399	344	348	359	352	353	
ヤマハ	399	392	393	394			

ケーブルTVチューナー

ソニー	756	757
パイオニア	748	
パナソニック	744	745 746 747
日立	722	
PHILIPS	763	764 765 766 767 768

BSデジタルチューナー

RCA	837	838	839	842
ソニー	832	835		
東芝	833	836		
パナソニック	826	829		
ビクター	822			
日立	824			
PHILIPS	825	843	844	845 846 847 848 849
ユニデン	825			

本機について

設置・接続する

準備・基本操作

進んだ使い方

付録

フロントパネルディスプレイ表示一覧

電源STANDBY/ON

VOLUME -40.0dB

イージーセットアップ

ROOM TYPE

1 ROOM TYPE?

SP POSITION

2 SP POSITION?

ROOM SIZE

3 ROOM SIZE?

SETUP OK

4 SETUP OK?

マニュアルセットアップ

SOUND MENU

1 SOUND MENU

BEAM MENU

2 BEAM MENU

INPUT MENU

3 INPUT MENU

OPTION MENU

4 OPTION MENU

機器の切り替え

TV選択時

TV AUTO

DVD選択時

DVD AUTO

VCR選択時

VCR

AUX選択時

AUX AUTO

サラウンドモード

PLO LOGIC選択時

PLO LOGIC

PLII Movie選択時

PLII Movie

PLII Music選択時

PLII Music

PLII Game選択時

PLII Game

Neo:6 Cinema選択時

Neo:6 Cinema

Neo:6 Music選択時

Neo:6 Music

ナイトリスニングモード

CINEMA選択時

NIGHT:CINEMA

MUSIC選択時

NIGHT:MUSIC

OFF選択時

NIGHT OFF

ビームモード

ステレオモード選択時

STEREO MODE

3ビームモード選択時

3 BEAM MODE

5ビームモード選択時

5 BEAM MODE

ST+3ビームモード選択時

ST+3 BEAM MODE

音量

ボリューム操作時

VOLUME -40.0dB

ミュート時

AUDIO MUTE ON

ミュート解除時

AUDIO MUTE OFF

テストトーン出力時

TEST LEFT

本機について

設置・接続する

準備・基本操作

進んだ使い方

付録

索引

ア行

イージーセットアップ 32

サ行

サラウンドモード 41

ステレオピンケーブル 20

スリープタイマー 61

セットメニュー 29

タ行

ダイナミックレンジ 47

ディスプレイ 13

デジタル音声ピンケーブル 21

テストトーン 59

電源コード 25

同軸デジタル出力端子 21

同軸デジタル入力端子 21

ドルビーデジタル 41

ドルビープロロジック 41

ドルビープロロジックII 41

ナ行

ナイトリスニングモード 42

ハ行

光ファイバーケーブル 20

ビームモード 43

マ行

マニュアルセットアップ 45

メモリー 30

ラ行

リモコン 15

リモコンコード 62

アルファベット順

AAC 41

DTS 41

DUAL MONO 48

LFEO.1チャンネル 69

OSD 28

OSD用ビデオケーブル 20

PCM 41

ヤマハホットラインサービスネットワーク

ヤマハホットラインサービスネットワークは、本機を末永く、安心してご愛用いただくためのものです。サービスのご依頼、お問い合わせは、お買い上げ店、またはお近くのサービス拠点にご連絡ください。

●ヤマハ電気音響製品サービス拠点

北海道 〒064-8543 札幌市中央区南十条西1-1-50 ヤマハセンター内
TEL (011) 512 - 6108

仙台 〒984-0015 仙台市若林区卸町5-7
仙台卸商共同配送センター3F
TEL (022) 236 - 0249

首都圏 〒143-0006 東京都大田区平和島2丁目1番1号
京浜トラクターマイナル14号棟A-5F
TEL (03) 5762 - 2121

浜松 〒435-0016 浜松市和田町200 ヤマハ(株)和田工場内
TEL (053) 465 - 6711

名古屋 〒454-0058 名古屋市中川区玉川町2-1-2
ヤマハ(株)名古屋流通センター3F
TEL (052) 652 - 2230

大阪 〒565-0803 吹田市新芦屋下1-16ヤマハ(株)千里丘センター内
TEL (06) 6877 - 5262

四国 〒760-0029 高松市丸亀町8-7
(株)ヤマハミュージック神戸 高松店内
TEL (087) 822 - 3045

九州 〒812-8508 福岡市博多区博多駅前2-11-4
TEL (092) 472 - 2134

●保証期間

お買い上げ日より1年間です。

●保証期間中の修理

保証書の記載内容に基づいて修理させていただきます。詳しくは保証書をご覧ください。

●保証期間が過ぎているとき

修理によって製品の機能が維持できる場合にはご要望により有料にて修理いたします。

●修理料金の仕組み

◆ **技術料** 故障した製品を正常に修復するための料金です。技術者の人件費、技術教育費、測定機器等設備費、一般管理費等が含まれています。

◆ **部品代** 修理に使用した部品代金です。その他修理に付帯する部材等を含む場合もあります。

◆ **出張料** 製品のある場所へ技術者を派遣する場合の費用です。別途、駐車料金をいただく場合があります。

●補修用性能部品の最低保有期間

補修用性能部品の最低保有期間は、製造切り後8年です。補修用性能部品とは、その製品の機能を維持するために必要な部品です。

●持ち込み修理のお願い

故障の場合、お買い上げ店、または最寄りのヤマハ電気音響製品サービス拠点へお持ちください。

●製品の状態は詳しく

サービスをご依頼されるときは製品の状態をできるだけ詳しくお知らせください。また製品の品番、製造番号などもあわせてお知らせください。

※ 品番、製造番号は製品の背面もしくは底面に表示してあります。

●スピーカーの修理

スピーカーの修理可能範囲はスピーカーユニットなど振動系と電気部品です。尚、修理はスピーカーユニット交換となりますので、エーシングの差による音色の違いが出る場合があります。

●摩耗部品の交換について

本機には使用年月とともに性能が劣化する摩耗部品(下記参照)が使用されています。摩耗部品の劣化の進行度合は使用環境や使用時間等によって大きく異なります。

本機を末永く安定してご愛用いただくためには、定期的に摩耗部品を交換されることをおすすめします。

摩耗部品の交換は必ずお買い上げ店、またはヤマハ電気音響製品サービス拠点へご相談ください。

摩耗部品の一例

ポリウムコントロール、スイッチ・リレー類、接続端子、ランプ、ベルト、ピンチローラー、磁気ヘッド、光ヘッド、モーター類など

※ このページは、安全にご使用いただくためにAV製品全般について記載しております。

愛情点検



★永年ご使用の製品の点検を！

こんな症状はありませんか？

- 電源コード・プラグが異常に熱い。
- コゲくさい臭いがする。
- 電源コードに深いキズが変形がある。
- 製品に触れるとビリビリと電気を感じる。
- 電源を入れても正常に作動しない。
- その他の異常・故障がある。



すぐに使用を中止してください。

事故防止のため電源プラグをコンセントから抜き、必ず販売店に点検をご依頼ください。
なお、点検・修理に要する費用は販売店にご相談ください。

製品の機能や取扱いに関するお問い合わせは、お客様ご相談センターにご連絡ください。

お客様ご相談センター

TEL (0570) 01 - 1808 (ナビダイヤル)

全国どこからでも市内通話料金でご利用いただけます。

携帯電話、PHSからは下記番号におかけください。

TEL (053) 460 - 3409

FAX (053) 460 - 3459

住所 〒430-8650 静岡県浜松市中沢町10-1

ご相談受付時間 10:00~12:00、13:00~18:00

(日・祝日及び弊社が定めた日は休業とさせていただきますのであらかじめご了承ください。)

製品の機能や取扱いに関する情報は、下記のホームページから入手することができます。

ヤマハオーディオ&ビジュアルホームページ

<http://www.yamaha.co.jp/audio/>

お客様から寄せられるよくあるご質問をまとめておりますので、ご参考にしてください。

ヤマハ株式会社

〒430-8650 浜松市中沢町10-1

